

平成16年度兵庫教育大学プロジェクト研究

子どもの自然体験活動の指導に
求められる学校教員の資質能力形成に関する研究

研 究 報 告 書

(第 三 年 次)

研究代表者 長 澤 憲 保

(兵庫教育大学学校教育研究センター教授)

は し が き

本報告書は、平成14年度～15年度に兵庫教育大学学校教育研究センタープロジェクト研究として、また平成16年度に兵庫教育大学プロジェクト研究として三ヶ年にわたって取り組まれてきた研究の第三年次報告書である。本研究の主題は、「子どもの自然体験活動の指導に求められる学校教員の資質能力形成に関する研究」として、特に21世紀の教師としての実践的指導資質能力の形成という教師教育の新たな課題に対応すべく、敢えて学校教育領域と社会教育領域とに跨る、社会教育施設を活用した学校教育としての自然体験活動のための学校教員の指導資質能力の在り方を探究しようとしたものである。

今日、児童・生徒だけではなく、教員をめざす学生や若手教員でさえ、自然体験や社会体験が不足していると指摘され、教員自らが自然体験活動や社会体験活動等の楽しさや喜びを数多くは経験しておらず、学校教育における体験活動プログラムの教育的意義や可能性を十分に生かせていないといわれている。したがって、教員をめざす学生や若手教員が、自然体験活動や社会体験活動の経験等をより充実させ、そうした体験活動指導の力量を高めることが、今日、日本の学校教育をいっそう充実させ、より豊かな人間性の形成と逞しい心身の育成を行うために極めて重要な課題となってきた。そこで、本研究では、学内外の多くのご理解とご協力を得て、この課題に取り組んできたのである。

また、本研究では、「教育実践の場に研究成果を還元する」ことをめざして、本年度は「はじめての自然体験活動指導—計画づくりのポイント—」リーフレット及びワークシート綴りという「商品の開発」を行ってきた。多様な状況にある教育実践の場に、高い有効性を発揮する「商品」の開発は至難の業ではあるが、教育実践の場に立つ多くの方々のご協力を得て、この研究報告を纏めることができたことは、本研究に携わる者として大きな喜びである。

多くの方々からご意見・ご批評を賜りながら、よりいっそう充実した研究に取り組んで参りたいと考える。

研究代表者 長 澤 憲 保

目 次

はしがき	1
目 次	2
第 1 章 研究の目的及び方法	
第 1 節 研究の目的	3
第 2 節 研究の内容及び方法	4
第 2 章 研究の計画及び経過	
第 1 節 研究の計画	7
第 2 節 研究活動の経過	8
第 3 章 「はじめての自然体験活動指導」リーフレット開発	
第 1 節 自然体験活動指導の企画・運営過程の分析	12
第 2 節 自然体験活動指導の企画・運営過程の概要構成	14
第 3 節 「はじめての自然体験活動指導」リーフレットの構想・開発	16
第 4 章 「計画作成ワークシート綴り」の開発	21
第 5 章 リーフレットの有効性	
第 1 節 調査の内容と方法	25
第 2 節 リーフレットの有効性に関する考察	35
資料 1 「はじめての自然体験活動指導」リーフレット調査質問紙	36
第 6 章 研究の成果と課題	37
研究組織	39
資料 2 「はじめての自然体験活動指導」リーフレット	
資料 3 「はじめての自然体験活動指導」ワークシート綴り	

第1章 研究の目的及び方法

第1節 研究の目的

今日、児童・生徒だけではなく、教員をめざす学生及び学校教員自身にも豊富な自然体験や生活体験が不足していると指摘する教育関係者は少なくなく、学校教員自らが自然体験活動の楽しさや喜びを数多く経験していなければ、学校が実施する野外教育プログラムにおける自然体験活動の重要性やその教育的意義が教員自身に理解できず、指導者として児童・生徒にその楽しさや喜びを十分に味わわせることができないとされている。こうした点から、教員をめざす学生や学校教員自身の自然体験活動や野外活動指導の経験等の充実が、今日、わが国の学校教育における自然体験活動指導を充実させ、より豊かな人間性の形成と逞しい心身の育成をめざす教育実践を成立させるためには、緊急かつ重要な課題である。

周知のとおり、教育改革国民会議の提言や「21世紀教育新生プラン」を受けて、平成13年6月29日、第151回通常国会において、「学校教育法の一部を改正する法律」ならびに「社会教育法の一部を改正する法律」が成立し、同年7月11日付けで公布・施行された。新設の学校教育法第18条の2では、学校は、ボランティア活動等の社会奉仕体験活動、自然体験活動等の様々な体験活動の機会を児童・生徒に意図的に提供し、体験活動の充実に努めるとともに、その場合には、社会教育関係団体等の関係団体、関係機関との連携に十分配慮することと定められた。つまり、この法律では、学校教育に、自然体験活動等の充実を図るためのカリキュラム化を求めると同時に、学校教育と社会教育との、よりいっそうの連携強化を明確に打ち出したのである。

そうしたなかで、平成14年7月に中央教育審議会から提出された「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について（答申）」でも明文化されているように、自然体験活動や野外活動のみに限らず、各種の体験活動が、児童・生徒の「生きる力」の形成や発達にとって重要であればあるほど、学校教育で行われる児童・生徒の体験学習では、学校教員により適切な指導資質能力が求められるようになる。しかしながら、学校教育における実際の指導では、より効果的な指導内容・指導方法等に関する個々の教員の専門的力量的修得とその活用には至っておらず、必ずしも効果的な指導が成

立しているとはいえない。児童・生徒の自然体験活動に対する学校教員の適切な指導を充実させるためには、効果的な指導に関する有効な事例や「適切な指導を行うために必要な教員の資質能力」が明確になっていることが不可欠であり、そうした教員の指導資質能力の育成は、今後の教員養成系大学・学部の重要な教育課題の1つであると考えられる。

そこで、本研究では、こうした課題に対応していくため、兵庫県内の青少年教育施設の指導者、小学校の教員及び児童、教育委員会の指導者等を対象とした質問紙調査と野外活動等に携わる指導者の実践観察やインタビュー調査を通して、児童の自然体験活動の指導に求められる学校教員の資質能力を明らかにするとともに、その成果に基づいて学校教員自らがそうした指導資質能力を高め、より効果的な教育実践を計画できるように支援する自然体験活動指導のための「リーフレット」及び「ワークシート」の開発を目的とした。

第2節 研究の内容及び方法

本研究は、三年次にわたるプロジェクト研究として、第1年次に「実践の理論化」、第2年次に「研究成果の実践化」、第3年次に「研究成果の商品化」をめざして、継続的に取り組んできた。平成16年度は、研究計画の第3年次にあたり、第1年次、第2年次の研究成果をふまえて「研究成果の商品化」を図ることを重点課題として取り組んだ。

具体的には、平成16年度は、以下に述べる平成14年度・15年度の研究成果をふまえて研究を推進していった。

○平成14年度（理論化研究）

初年度の平成14年度は、平成13年度教育改善推進経費（学長裁量経費）研究『「自然学校」に求められる学校教育教員の指導資質能力に関する研究－「自然学校」受入施設の青少年教育指導者に対する調査を通して－』の研究結果を発展させて、児童の自然体験活動に対して学校教員に求められる指導資質能力を、兵庫県内の青少年教育施設の指導者、小学校の教員及び児童、各教育委員会の指導者を対象とした質問紙調査から明らかにすることを研究の目的とした。

具体的な研究の内容としては、①自然体験活動や野外活動のもつ人間形成上の意味とその成立条件を理論的に論究し、②学校教育と社会教育における自然体験活動の指導性の違いや③自然体験活動に取り組む児童の自然観や体験観を質問紙調査及び面接調査から明らかにし、④自然体験活動の指導において学校教員に求められる資質能力を分析し、それらを構造的に把握することを試みた。これらの分析結果を通して、自然体験活動における学校教員の指導資質能力と児童の学習成果に関する評価尺度を作成した。

○平成15年度（実践化研究）

平成15年度は、平成14年度の質問紙調査及び面接調査から作成した学校教員と児童の評価尺度を用いて、県内の「自然学校」における青少年教育施設の指導者や小学校教員の実際の指導場面から優れた指導実践に埋め込まれた理論、知識、資質能力等と、その指導を受けた児童の学習成果を明らかにすることによって、平成14年度の「自然体験活動で学校教員に求められる指導資質能力」評価尺度の妥当性を確認し、その評価尺度に基づく本調査を実施し、「自然体験活動で学校教員に求められる指導資質能力」を構造的に解明することを研究の主な目的とした。

平成15年度の研究では、平成14年度の研究成果を実際の指導実践から確認するために、兵庫県内の「自然学校」受入主要施設を訪問し、実際の青少年指導者や小学校教員の指導実践をビデオ撮影したり、彼らに面接調査を実施して、優れた実践の基盤にある資質能力を7つの諸因子として明らかにするとともに、それを児童の学習成果からも裏付ける証拠資料を収集した。そうした指導者と児童を対象にした研究結果に基づいて、平成14年度の研究成果を、「自然体験活動で学校教員に求められる指導資質能力の7因子モデル」へと発展させた。

○平成16年度（商品化研究）

平成16年度は、平成15年度に確認された「自然体験活動で学校教員に求められる指導資質能力の7因子モデル」に基づいて、自然体験活動の指導資質能力形成に有効な学校教員のための「リーフレット」及び「計画立案用ワークシート綴り」の開発を主な研究目的とした。平成16年度の研究では、実際に、児童の指導に携わっている青少年教育施設の指導者、学校教員、教育委員会関係者等をも、この「リーフレット」及び「ワークシート綴り」の企画・開発に加えるとともに、その成果は、県内各教育委員会、各小学校、「自然学校」受入施設等に提供することとした。また、その「リー

フレット」及び「ワークシート綴り」の有効性については、まず試作版を作成し、平成16年度の「自然学校」取り組み校に試験的活用を依頼し、その意見聴取調査の実施をも併せて行いながら、並行して「リーフレット」及び「ワークシート綴り」の改善・充実に取り組んでいくこととした。

研究の方法としては、①まず、「研究成果の商品化」の焦点を、教育実践の過程で最も課題の多い、学校教員による自然体験活動指導の「指導計画づくり」に絞り込み、②実際の、学校教員による自然体験活動指導の「指導計画づくり」での課題を抽出しながら、課題の明確化を図り、③「指導計画づくり」のポイントとその作成手順を構造化し、④各学校における「指導計画づくり」の一般的な作成過程のモデルを構想し、⑤指導計画作成支援資料として「リーフレット」及び「ワークシート綴り」を開発することとした。また、⑥「リーフレット」及び「ワークシート綴り」の開発研究には、種々の実質的な諸アイディアの集積が必要となるため、ワーキンググループを設置して、集中的に検討を進め、試作版づくりに取り組むこととした。そして、⑦仮作成された「リーフレット」及び「ワークシート綴り」の試作版について、本プロジェクト研究への学内参加・協力メンバーと、兵庫県立教育研修所指導主事及び県立嬉野台生涯教育センター指導主事、県立南但馬自然学校指導主事等とで具体案の検討を重ね、それぞれの改善への意見や感想等を重ね合っていた。そして、⑧「リーフレット」及び「ワークシート綴り」の試作版ができると、兵庫県立嬉野台生涯教育センター及び県立南但馬自然学校の施設で、「自然学校」を開催した小学校に、これら「リーフレット」及び「ワークシート綴り」の有効性や使い易さ等に関して、追加調査を行って評価を行ってもらった。

本報告書は、これら「リーフレット」及び「ワークシート綴り」の作成過程と、その活用の有効性に関する調査研究の成果等を総括的に取りまとめて報告するものである。

(長澤 憲保)

第2章 研究の計画及び経過

平成16年度の研究活動は、2つのワーキンググループの取り組みとして展開された。第1グループは、平成15年度の「自然体験活動で学校教員に求められる指導資質能力モデル」作成をめざす研究をより充実させるために、さらに調査対象数を増やして追加的な追跡研究に取り組んだ。（これは、毎年、学校行事として「自然学校」が実施されている時期が各学校共におおよそ限定されていて、実証的な調査研究の精度を高めるために、平成16年度前期分までの「自然学校」調査研究資料を追加すべきであるとプロジェクト研究会議で判断されたためである。）

第2ワーキンググループは、当初の平成16年度の研究計画に沿って、自然体験活動指導リーフレットとワークシートの開発に取り組むことにした。第1グループの追加研究の成果は、平成15年度研究の成果を補完するものであるため、ここでは、主として第2グループの取り組みである「自然体験活動指導リーフレット」及び「ワークシート綴り」の開発研究について報告することとする。

第1節 研究の計画

「はじめての自然体験活動指導—計画づくりのポイント—」のリーフレット及びワークシート綴りの開発研究は、主として、次の4つの段階に分けて取り組んだ。第1段階は、「リーフレット」（試作版）の開発段階である。自然体験活動指導に対する計画・準備段階での学校教師による企画・立案過程における諸課題及び重要ポイントについて、「自然学校」等の多くの教育実践事例を検討しながら、学校教員の指導計画立案過程を支援できる「リーフレット」（試作版）の開発に取り組んだ。第2段階は、この「リーフレット」（試作版）に基づいた具体的な指導計画の立案等のために参考となる、①体系的な教育目標づくり、②責任の所在を明確にした意思決定体制づくり、③より充実した情報収集法、情報蓄積＝管理法、情報発信＝周知法の確立、④準備、⑤運営、⑥危機対応、⑦評価等に関する明確な役割分担・協力支援体制づくりのための方法・技術等、具体的な段取り・手続き等に関する「ワークシート綴り」

(試作版)の開発に取り組んだ。

第3段階は、「リーフレット」(試作版)及び「ワークシート綴り」(試作版)の有効性に関する質問紙調査を行った。兵庫県立嬉野台生涯教育センターと兵庫県立南但馬自然学校で「自然学校」を開催した各小学校を対象に、「リーフレット」(試作版)及び「ワークシート綴り」(試作版)の有効性に関する調査を実施し、改善意見等の収集・分析、評価及び改善案の取りまとめに取り組んだ。

第4段階は、これらの改善意見等に基づいて、「リーフレット」及び「ワークシート綴り」の試作版の修正に取り掛かり、完成版の開発に取り組んだ。

こうした研究計画に基づいて、段階的に研究開発を進め、資料2. 資料3に示す「リーフレット」及び「ワークシート綴り」を完成させたのである。

第2節 研究活動の経過(第2ワーキンググループ)

平成16年度の研究活動は、以下のような経過を辿って、「はじめての自然体験活動指導—計画づくりのポイント—」のリーフレット及びワークシート綴りの開発を行った。本年度は、プロジェクト研究の第3年次にあたり、「研究成果の商品化」をめざして、リーフレット及びワークシート綴り開発の具体的作業を計画的に展開するため、グループリーダーである学校教育研究センター・長澤憲保と客員研究員である兵庫県立嬉野台生涯教育センター・藤井潤とが、予め叩き台となるリーフレット及びワークシート綴りの原案等を提示し、それらを第2ワーキンググループのメンバーで検討し、加筆・修正する形で推進し、さらに第1ワーキンググループのメンバーをも含むプロジェクトメンバー全員に諮って、内容・形式等を確定するという形をとった。なお、これら「リーフレット」及び「ワークシート綴り」の有効性調査研究のための質問紙作成及びその分析については、特に第1ワーキンググループの学校教育研究センター・別惣淳二に協力を依頼し参加いただいた。

○ 活動日程

- ① 3月24日：第1回全体会議：ワーキンググループの構成員を検討
- ② 4月20日：第2回全体会議：研究課題の確認とグループ分けの決定

- ③ 4月27日：第1回WG会議：「リーフレット」構想案の検討①
- ④ 6月15日：第2回WG会議：「リーフレット」構想案の検討②
「ワークシート」構想案の検討①
- ⑤ 6月29日：第3回WG会議：「リーフレット」原稿案の検討①
「ワークシート」構想案の検討②
- ⑥ 7月7日：第4回WG会議：「リーフレット」原稿案の検討②
- ⑦ 7月21日：第5回WG会議：「リーフレット」等有効性調査質問紙の作成1
「リーフレット」試作版の作成、「ワークシート」原稿案の検討①
- ⑧ 8月3日：第6回WG会議：「リーフレット」等有効性調査質問紙の作成2
「ワークシート」原稿案の検討②
- ⑨ 8月6日：第7回WG会議：「リーフレット」試作版の作成①
「ワークシート」試作版の作成①
- ⑩ 8月22日：第8回WG会議：「リーフレット」試作版の作成②
「ワークシート」試作版の作成②
- ⑪ 8月27日：第9回WG会議：「リーフレット」有効性調査質問紙の発送作業
- ⑫ 10月6日：第10回WG会議：「リーフレット」有効性調査質問紙の分析1
- ⑬ 10月14日：第11回WG会議：「リーフレット」有効性調査質問紙の分析2
- ⑭ 10月21日：第12回WG会議：「リーフレット」試作版の修正①
「ワークシート」試作版の修正①
- ⑮ 10月28日：第13回WG会議：「リーフレット」試作版の修正②
「ワークシート」試作版の修正②
- ⑯ 11月6日：第1回プロジェクト研究発表会：研究成果の中間発表会
- ⑰ 11月12日：第14回WG会議：「リーフレット」試作版の修正③
「ワークシート」試作版の修正③
- ⑱ 11月26日：第15回WG会議：「リーフレット」試作版の最終検討
- ⑲ 12月2日：第16回WG会議：「ワークシート」試作版の最終検討
- ⑳ 12月15日：県立教育研修所及び南但馬自然学校、嬉野台生涯教育センターの自然学校専門指導員等関係者との「リーフレット」「ワークシート」に関する検討会議
(外部専門家等からの意見聴取)

- ㊴ 12月24日：第18回WG会議：「リーフレット」「ワークシート」完成版①
- ㊵ 1月17日：第19回WG会議：「リーフレット」「ワークシート」完成版②
- ㊶ 2月27日：第20回WG会議：「リーフレット」「ワークシート」の印刷
- ㊷ 3月4日：第2回全体会議
- ㊸ 3月27日：第2回プロジェクト研究発表会：平成16年度研究成果の発表

このような日程で、「はじめての自然体験活動指導—計画づくりのポイント—」のリーフレット及びワークシート綴りの開発を、予定通り行うことができ、平成16年度第2回プロジェクト研究発表会（平成17年3月22日）で、研究成果の発表を行うことができた。

（長澤 憲保）

第3章 「はじめての自然体験活動指導」リーフレット開発

この「自然体験活動指導に求められる学校教員の資質能力形成」に関するプロジェクト研究において、第3年次「研究成果の商品化」に際して、「はじめての自然体験活動指導—計画づくりのポイント—」のリーフレット及びワークシート綴りの開発をめざすことにした根拠は、具体的には、例えば、学校教育に位置づけられる自然体験活動（特別活動：学校行事：遠足・集団宿泊的行事）として、先進的に兵庫県下の全小学校第5学年児童を対象に取り組まれてきた「自然学校」の教育実践において、この教育実践に実施の場を提供し、指導に支援・協力を与えてきた「自然学校」受け入れ施設側の専門指導員に対する、平成15年度までの調査から、学校教員には、○自然体験、社会体験等に関する活動経験や指導経験の不足、○自然環境、社会環境等に関する専門知識・技能等の不足、○自然体験活動指導に意欲的に取り組める健康や体力等の不足と共に、特に①「自然学校」を位置づける学校教育目標や特別活動目標、自然体験活動の意義等に関する十分な理解や目標指向的な準備・運営が十分でないこと、②「自然学校」という教育実践の場を最大限に生かそうとする事前・事後の指導計画や成果活用の展望等が十分でないこと、③「自然学校」（5泊6日）の行事期間内では、刻々の状況変化を予想したり、状況変化に即して適切な対応が取れるような意思決定態勢が十分に準備できていないこと等が指摘されてきたからである。そこで、こうした指摘に基づいて、この「自然学校」等における自然体験活動指導の充実と改善に向けて協力・支援となるように、自然体験活動指導の計画づくりに焦点をあてた「はじめての自然体験活動指導—計画づくりのポイント—」のリーフレット及びワークシート綴りの開発をめざすことにしたのである。

ただし、「自然学校」プログラムに位置づけられる各種アクティビティ等に関する専門的な知識・技術等については、すでに数多く市販されている「野外活動の方法・技術」「野外活動指導マニュアル」等も含め、豊富に開発されてきたものが存在するため、ここでは開発の対象とはしないこととした。

なお、学校教育の一環として営まれる自然体験活動の指導のあり方を、幅広く一般的に概観することはたいへん困難であるため、本研究では、兵庫県下の全小学校第5学年児童を対象に取り組まれてきた「自然学校」の教育実践に焦点を絞って、その自

然体験活動指導のあり方について観察・調査、分析・評価を行うこととした。

第1節 自然体験活動指導の企画・運営過程の分析

「自然学校」における自然体験活動指導の企画・運営過程については、平成15～16年度の兵庫県立南但馬自然学校及び同県立嬉野台生涯教育センターの自然学校専門指導員（指導主事）等への意見聴取等から、①兵庫県教育委員会や「自然学校」受入公的施設等が提供しているモデルプランを参考にしたり、②自校の前年度までの「自然学校」実施計画を一部修正して活用したり、③「自然学校」受入民間施設が提供するサービスを取り入れたり等、既成、或いは既存の計画や前例を踏襲するような形のものが多く、施設利用各小学校の「自然学校」担当者が、自ら主体的に創意工夫をしながら、各学校の教育目標や教育課題、個別的ニーズ等に即して企画・運営している例は必ずしも多くないとの実態報告を得てきている。その背景として、具体的には、これらは、①兵庫県で「自然学校」が実施されるようになってから、15年余が経過し、自然体験活動指導の企画・運営等にマンネリ化や形骸化が起こってきていること、②学校教員の年齢構成上の偏りから、体力的にも精神的にも積極的に「自然学校」における指導担当を担える教員が各学校毎に固定化しつつあり、前年度までの自然体験活動指導の企画・運営等を一部分修正する程度で踏襲する傾向が強まっていること、③「自然学校」受入施設及び利用施設等の提供できる各アクティビティ等が、多くの場合、毎年、部分的には改善・工夫されているものの、「あの施設ではこの活動とこの活動」というように、活動内容の固定化が進み、各施設に特色化が進んでいるものの、各学校毎に独自の企画・運営を行える可能性の幅が小さくなってきていること、④少子化による児童数の減少等により、単独校での実施から、複数校での合同実施・連携実施を迫られる等の事情により、事前に児童の実態を十分に反映させた企画を立てたり、児童たちに取り組み準備をさせる体制が組めなくなったりしてきていること、⑤児童個々人の自然体験活動や集団的活動等に関する経験差や社会性発達の未熟さ、自己管理能力の未熟さ等が企画・運営に関する大きな重荷となってきていること、等の原因が指摘されてきている。しかし、今後予測される学校教員の大量退職に対応した「自然学校」等、自然体験活動指導の企画・運営に関する方法・技術の確かな継承の

ためにも、教員養成課程に学ぶ学生や若い学校教員が、こうした自然体験活動の教育的な意義や価値を十分に理解し、より効果的な指導計画を自ら主体的に企画・立案できるような資質能力を形成する必要性は益々高まってきている。そこで、これら両施設の自然学校専門指導員等の実態報告等を参考に、この「自然学校」を対象とした自然体験活動指導の企画・運営の実態を、何校かの「自然学校の葉」や「実施計画」等を手掛かりに分析し、望ましい主体的な自然体験活動指導の企画・運営に関する「計画づくりのあり方」に焦点を当てながら、その改善点、協力・支援のポイント等を検討すると共に、これらを改善、協力・支援する「リーフレット」等の開発に取り組むこととした。

両施設を利用した「自然学校」における、近年の指導計画等を検討すると、次のような問題点が浮き彫りになることがわかった。①「自然学校」自体の教育目標やねらいが不明確であること、さらに各学校の学校教育目標や特別活動目標、総合的学習活動目標、各教科目標等との相互関連性や相互位置づけが不明確であること、②「自然学校」における各アクティビティ等に関する反省・評価や集団宿泊活動等に関する反省・評価が不十分であること、③「自然学校」の企画・運営に対する反省・評価が不十分であること、④前年度までに指摘された諸課題等への取り組みや次年度への改善工夫の指摘等が十分に引き継がれず生かされる体制になっていないこと、⑤利用施設等への「下見」「打ち合わせ」等の観点や事前準備の仕方、点検・評価事項等が、事前の準備段階で、担当者等に十分理解されていないこと、⑥各学校内における連絡・意思決定の体制や責任の所在・分担体制等が明確化されてなく、迅速な判断・対応等ができにくいこと、⑦勤務条件等の関係から、「自然学校」の全日程（5泊6日等）にわたって、一貫した運営・指導体制等を取りにくく、途中で主たる担当指導者でさえ、交代や引き継ぎによって運営等を繋いでいる形となり、児童たちと学級担任教員等との一体的な活動経験の共有化等が難しいこと等が指摘できることがわかった。そこで、これらの問題点を少しでも補完できる、望ましい自然体験活動指導（「自然学校」）の企画・運営を行うことができるモデルプランを開発することが必要であることが明確になった。

第2節 自然体験活動指導の企画・運営過程の概要構成

ところで、平成14年度・15年度の研究成果から得た「自然体験活動の指導に求められる学校教員の資質能力」に関する7つの因子（「第1因子：共通理解と集団指導力」「第2因子：安全管理・安全指導の能力・知識」「第3因子：自然体験活動の知識」「第4因子：企画・指導技術」「第5因子：状況予想力と対人関係能力」「第6因子：関心・意欲」「第7因子：元気・体力」）に関する「教員用評価尺度」及び「児童用評価尺度」を用いて、教員及び児童の自己評価、教員による児童活動の評価、児童による教員の指導に対する評価を行った結果、これら7つの因子のうち、多くの因子について客観的評価と主観的評価とで、かなりの齟齬が見られたが、第4因子「企画・指導技術」に関して、教員及び児童双方がそれぞれに高得点を与えた事例には一致して高い評価を与える傾向が確認された。また、兵庫県立嬉野台生涯教育センター及び兵庫県立南但馬自然学校の自然学校専門指導員に対する聴取調査でも、「企画・立案や意思決定・運営体制づくりに十分な準備や対応ができていて、ねらいを明確にして各活動の計画を準備している学校では、自然体験活動指導に学校教員の指導力が十分に発揮される傾向が見られる」との結果を得た。さらに、兵庫県下で小学校第5年児童に対して実施されている「自然学校」には、実際にさまざまな実施内容や実施形態があり、特に主要施設では「自然学校」専門指導員や指導補助員制度が設けられていることから、自然体験活動指導に求められる学校教員の資質能力に関して必ずしも7因子すべてを必要としていない事例が多いことが明らかになった。そこで、各校の「自然学校」運営にとって不可欠な因子に絞って自然体験活動指導リーフレットの開発にあたることにした。

これらの点から、自然体験活動指導のリーフレットの主題として、○学校教育における自然体験活動の意義、○自然体験活動の企画・立案、○指導計画・指導体制の構築、○事前指導の計画と取り組み、○事後指導の計画と取り組み等を含む、「自然体験活動指導：計画づくりのポイント」とすることになった。

「自然体験活動指導の企画・運営の展開過程」（図1.）は、「自然学校」を想定した自然体験活動指導の企画・運営に関わる、事前指導—事中指導—事後指導にわたる全体的な過程において重要な構成要素を一括して整理したものである。つまり、それは、自然体験活動指導の典型場面を明確化し、①自然体験活動のねらいづくり、②基

[illegible]

本計画の作成（・主な活動の選定、・活動展開の物語、・ねらいに迫る重点）、③施設下見の要点（・3ヶ月前の観点、・1ヶ月前の観点）、④指導者側の準備（・意思決定の体制、・活動推進の体制、・計画管理の体制）、⑤児童への事前指導（・個人への指導、・学習集団への指導）、⑥保護者への説明（・個人への対応、・全体への対応）、⑦活動・生活への指導（・具体的な運営・管理分担・打ち合わせ、・運営等の調整・修正、・児童への指導・支援）、⑧評価と総括（・ねらいに即して、・成果を捉える眼、・評価の結果とフィードバック、・課題発見と対応）、⑨成果を生かす（・児童個人へ、・学級・学年へ、・保護者・関係者へ、・地域や社会へ）という各場面毎での指導事項等を焦点化したものである。このように、自然体験活動指導の企画・運営の展開過程をモデル的に明確化することで、自然体験活動指導に対するより組織的・計画的な協力・支援体制を構築することが可能になり、自然体験活動（「自然学校」）の運営体制をより迅速に的確に動かしていくことができるからである。

第3節 「はじめての自然体験活動指導」リーフレットの構想・開発

「はじめての自然体験活動指導ー計画づくりのポイントー」リーフレット開発にあたっては、平成14年度・15年度の研究過程で社会教育施設専門指導員等の方々から数多く指摘されてきた点として、自然体験活動指導の教育的効果を高めるために、①自然体験活動の意義や価値を児童や保護者を含む全関係者間で明確に共通理解し、②児童が自主的に活動できるように促しつつ、③状況変化を予見しながら事前にプログラムを工夫し、④児童の健康・安全に十分配慮しながら、⑤楽しく参加できる人間関係づくりに取り組むこと等を開発の重要な前提として取り組むことにした。また、このリーフレット活用者として、特に学校教育としての自然体験活動の指導に初めて取り組む若手教員を想定し、自然体験活動とその指導の全体的な見通しを展望すると共に、活動計画や指導計画を立案しやすくし、活動を通じた教育的効果をよりいっそう高められるように協力・支援することを意図して開発することとした。さらに、このリーフレットの構成は、企画・立案の時系列的な順序等に沿って、Q1.～Q18.の問いかけ形式になっており、各学校での多様な事情を反映した活動計画や指導計画の立案

に際して、参考となる主要な観点を中心に柔軟な活用が可能なように、一定の企画・立案の方法・技術に関する知識・情報を伝えるのではなく、企画・立案のための見方・考え方、配慮の要点等を学び、担当者が主体的にこれらの諸観点を活用できるように工夫したものである。なお、このリーフレットの様式は、「Q 1. ～Q 18.」を中心に据え、各頁に多くの余白部分を残しているが、これはこのリーフレットの活用者に、事前・事中・事後の気づきや反省等について、メモや主体的な書き込みができるようにと配慮したものである。

つぎに、具体的に、Q 1. ～Q 18. の各項目について、そのねらいや要点等を略述することにする。

「Q 1. 自然体験活動の意義って何でしょう？」では、「自然学校」という自然体験活動全体としての教育的なねらい、価値や意義を十分に意識化させるため、○学校教育目標や特別活動の目標、教科・領域学習活動の目標との関連性、○児童一人一人の発達の課題や発達可能性との関連性、○学級づくりの目標・計画との関連性等について構想させようとしたものである。

「Q 2. 活動のねらいや指導のポイントは何でしょう？」では、「自然学校」における、特に具体的な個々の自然体験活動に焦点を絞って、○各アクティビティを通して、全体として一貫して追求させたい自然体験活動のねらい、○自然体験活動の指導目標として特に改善したい児童たちの実態と指導者のねがい等を検討させようとしたものである。

「Q 3. 活動プログラムの作成—いつから、どのように始めますか？」では、「自然学校」直前まで校務等の多用さに追われ、つつい時間的な余裕をもって早めに取り組むことのできなかった実践事例の反省から、「○3ヶ月前からできることは？」「○1ヶ月前からできることは？」「○直前にできることは？」と段階的な準備過程の意識化を迫ると共に、「○プログラム作成への児童参画は？」という問いかけから、企画・立案過程への主体的な児童参加の必要性に気づかせる工夫をしたものである。

「Q 4. 各活動のもつ可能性をチェックしましたか？」「Q 5. 各活動の教育的効果をより高める特色づけ、重点化のポイントをチェックしましたか？」では、「自然学校」の自然体験活動を構成する各アクティビティの主要な目標や内容、児童等の実態とその教育的可能性への理解を求め、より高い教育的効果をめざしての指導の要点等に関する指導者側の理解とその重要性に気づかせようとしたものである。

「Q 6. 活動プログラムのグランドデザインを持っていますか？」は、「自然学校」の自然体験活動を、全体としてより豊かで印象深い学習経験とさせるため、「Q 2.」の「活動のねらいや指導のポイント」を焦点に、単に個々の個別アクティビティの集合体としてではなく、5泊6日間全体を一貫した物語性・ドラマ性をもった学習経験として実現させるように工夫することを示唆するものである。自然体験活動全体を通して、「活動のねらい」に迫る要点と方略を明確にし、グランドデザインとして構想することの重要性に気づかせるものであり、こうしたグランドデザインを構想することによって、各活動毎の所要時間や留意事項等を明確化したり、雨天時や緊急時の活動プログラムの準備を図らせたりもさせようとするものである。

「Q 7. 施設下見から、活動の条件・環境をチェックしましたか？」では、とにかく見落とされがちな環境条件の適切性、立地条件の特色等をより明確に把握させるため、○宿舎や活動サイト等の施設・設備の特色や立地条件、○特色ある活動、重点活動のための環境条件、○集団宿泊生活のための宿舎環境の快適性、安全性、○緊急時の対応条件として配慮すべき要点等を気づかせようとするものである。

「Q 8. 指導者間の役割分担と指導の進め方をチェックしましたか？」では、「自然学校」における自然体験活動の展開や指導の充実を図るために、多くの関係者の協力・支援と効果的な諸資源の活用が不可欠であり、そのための相互理解や連携・協働システムの構築、意思決定システムの明確化が重要であることを自覚させ、○指導者間の意思決定・役割分担と連絡・調整の仕方、○状況変化に即した意思決定、連絡・調整のあり方、○プログラム推進のためのスケジュール管理のあり方、○活動指導過程での指導内容・指導方法等のチェックのあり方等に関して、具体的なシステム構築の必要性和意思決定や連絡・調整等の責任所在の明確化を図らせようとするものである。

「Q 9. 指導者側の準備や協力・支援の体制はできましたか？」では、「Q 8.」で構想された役割分担や協力・支援体制等が、具体的に機能するように準備されているかを点検させようとするもので、○具体的な活動プログラム立案の仕方、○個々の各アクティビティに対する指導内容・指導方法等の準備、○指導者側の準備及び協力・支援の体制づくり、○指導のため、協力・支援を得るための準備のチェックリスト、○準備計画表、準備日程表の作成、○自然体験活動（各アクティビティの計画を含む）の「桀」作成等について、準備させようとするものである。

「Q10. 児童たちへの事前指導・確認のポイントは何でしょう？」「Q11. 保護者へ

の事前連絡・確認のポイントは何でしょう？」では、「自然学校」に参加する児童自身や保護者に対して、自然体験活動の目的や意義、準備や対応等について予め理解を形成すると共に、安心して準備や参加に向けて取り組めるようにさせるために、事前指導や事前説明の要点を準備させようとするものである。○特別活動における集団宿泊生活の目標、○自然体験活動の目標、○生活規律・活動規律の目標、○自主的・自治的な活動計画、役割分担と取り組み方法、○児童一人一人の生活目標・生活計画と準備、○事前準備と緊急時の対応、連絡・協力体制のあり方、○個々の児童、特別な配慮を要する児童への対応・支援のあり方等が取り上げられている。

「Q12. 施設指導員との事前連絡・確認のポイントは何でしょう？」では、利用施設側の専門指導員や指導補助員等との連絡・打ち合わせすべき事項等を意識化させている。主な項目は、○自然体験活動の意義・目的と学校教育目標、特別活動・総合的学習活動の目標、取り組み等との関連性、○活動の内容・計画、施設指導員等との役割分担、○施設指導員等との連絡・調整の方法、○各活動の目標・内容・方法及び指導の分担・協力、○学校内の意思決定、連絡・調整の体制と施設側の対応、○施設・設備の特色・条件と各活動の留意点、○緊急連絡体制、応急措置等の基本的事項の確認等である。

「Q13. 各活動のポイントはチェックできましたか？」では、日々の具体的な各アクティビティの目標、内容、方法等の要点を確認するためのチェックポイントの意識化である。主な項目は、○各アクティビティの目標・内容・方法、指導、準備・分担等の要点、○各アクティビティの実施、或いは変更の条件、○各アクティビティの評価の要点等である。

「Q14. 児童たちは活動・生活の楽しさを期待していますか？」では、「自然学校」という自然体験活動に児童自身が主体的・意欲的に参加することが重要であるため、児童自身が期待感をもって参加できるように豊富な情報の提供や目的意識的な準備等を意識化させる必要性と要点を示している。主な項目は、○施設資料やVTR映像等での楽しい活動のイメージ化、○自己健康管理やグループ活動・係活動への準備、○仲間との楽しい体験活動のための分担・協力の自覚化等である。

「Q15. かかわり合いづくり、学級づくりは進みますか？」では、主体的・意欲的に学び合い、よりよい自然体験活動を実現しようと取り組む学級集団・学年集団として、相互信頼感や仲間意識を共有させ、自立的・自律的に取り組む構えを育てる事

前の取り組みを意識化させようとしている。○信頼し合える仲間意識の育成、○協力し合う活動経験の重み上げ、○生活規律・活動規律の育成、○思い遣り・心配りと共感、感謝、○集団としての一体感の高揚等を挙げている。

「Q16. 指導者として意欲と情熱がわいてきましたか？」では、自然体験活動の指導者自身の構えや意欲の高まりについて意識化させようとするものである。指導者自身が期待感や楽しみを抱いて準備し、明るく元気に生き生きと取り組むことは、慣れない自然環境において不安感を抱いたり、動揺しやすい児童たちに対しても、安心感や信頼感をもって生き生きと前向きに参加させるために不可欠な要点である。主な項目は、○楽しく生き生きした活動が見込める、○充実した集団生活ができる、○児童たちの創意工夫や可能性を引き出せる、○学級・学年のちからを高められる、○指導者として拘りたい重点が見えている等である。

「Q17. プログラムの成果と評価のポイントが見てきましたか？」「Q18. 活動プログラムの成果を事後に活用・発展させましょう！」では、「自然学校」という自然体験活動の終了後を展望して、どのようにその成果を総括し、どのようにその成果を生かしていくのか、さらに新たな課題をどうその後の学校教育の取り組みにおいて改善していくのか等を予め構想しておくことを勧めている。主な項目は、○活動プログラムの目標と成果の総括、○活動プログラム評価の要点、○特別活動・総合的学習活動における今後の取り組みとの関連、○今後の学級経営・学年経営等との関連、○児童一人一人の生活や学習活動等との関連、○学級・学年での相互人間関係等との関連等である。

この「はじめての自然体験活動指導—計画づくりのポイント—」リーフレットは、自然体験活動指導の企画・立案の指導書やマニュアルではない。あくまでも中心的な指導者たる学校教員が、主体的に自然体験活動指導の構想を立てられるように、主要な着眼点を示唆したものでしかない。したがって、具体的には、個々の学校の事情に即して個々のアクティビティの留意点等についてオープン・エンドであり、指導者本人が様々な情報を収集し、多様な状況を想定し、児童たちの実態や環境、施設・設備、指導者側の体制等を配慮しながら、安全・安心に繋がるように、また楽しく充実した活動等に繋がるように創意工夫して「指導計画」に纏め上げるべきものである。このリーフレットが、ここでは、より具体的で緻密な構想に基づき、明確な「指導計画」の作成に貢献できることを期待するものである。 (長澤 憲保)

第4章 「計画作成ワークシート綴り」の開発

自然体験活動指導の計画立案には、指導経験の豊富な教員があたる場合もあるが、比較的指導経験の少ない若年教員等が担当する場合も少なからずあり、往々にして前例等を踏襲するばかりになったり、既存の形式化されたアクティビティ等を組み合わせるに止まったりして、各学校の独自の条件に配慮したり、各施設等の特色を十分に生かしたり、指導担当教員自らの独自の創意工夫や願い等を鮮やかに反映するような指導計画等を立案できていない場合がある。そこで、「はじめての自然体験活動指導」リーフレットにおいて、単に企画・立案の主要な諸観点とその見方・考え方、配慮の要点等を掲げるのみでなく、さらに「計画作成ワークシート綴り」において、より具体的・実践的に、重要な計画立案の手順や意思決定の方法等について支援するため、意思決定の仕組みやフローチャート、ワークシート、準備や点検・評価等のチェックリスト等の雛形を用意し、はじめて計画立案等にあたる指導担当教員にも参考になるように準備した。

「計画作成ワークシート綴り」の内容構成は、次に略述するとおりである。

I. ワークシート綴りの使い方

「ワークシート綴り」の使用に際しての目的及び活用のポイントを略述した。

II. ワークシート綴りの構成一目次

III. ワークシート綴りの構成内容

0. 「計画づくりのフローチャート」

ここでは、自然体験活動の展開過程の全体を展望できるように、全体を4つのステップに分節化し、1) 計画・立案の段階、2) 事前準備の段階、3) プログラム実施の段階、4) 評価及び事後展開の段階とし、各々の段階に、さらにスモール・ステップを提示し、「はじめての自然体験活動指導」リーフレットの諸項目と対応させながら、全体構成を見えやすく工夫した。

1. 「コンセプト（自然体験活動のねらい）を決める5つの要素」

ここでは、自然体験活動のあり方に大きく影響する5つの要素（1）学校・学年の教育目標、2）自然体験活動の目的、3）子どもの思いや願い、やりたいこと、4）教師の思いや願い、やりたいこと、5）地域・保護者の思いや願い）を、どのように汲み取り、どのように生かしながらコンセプト（自然体験活動のねらい）に纏め上げ

るか、KJ法やコンセプトマップ法、チェックリスト法などを例示しながらコンセプト決定過程をイメージ化させるワークシートを提示した。

2. 「コンセプトとアクティビティ」

具体的な自然体験活動である各アクティビティには、それぞれに効果の高い特長がある。例えば、各種アクティビティを大別すると、1)「自然とのふれあい」を特長とするもの、2)「人とのふれあい」を特長とするもの、3)「地域とのふれあい」を特長とするもの、4)「自分との向き合い」を特長とするもの等がある。これらの特長を十分活用できるように、全体計画の中で、コンセプト及び日程等に即して、各アクティビティを選択・工夫していくポイントを明示した。

3. 「アクティビティカード」

4. 「アクティビティの組み合わせーグランドデザインを作ろうー」

ここでは、各アクティビティ毎に、名称、ねらい、内容・方法等をカード化して纏め（アクティビティカード）、1日毎のデザイン、全日程のデザイン（グランドデザイン）をグランドデザインシートに纏めていく工程等を例示した。受入施設側との事前打合せ等で、「自然学校」全日程を展望しながら、印象深く思い出となり、無理なく充実した自然体験活動が展開できるように、物語性・ドラマ性、減り張りの工夫等を示唆したものである。

5. 「施設下見チェックリスト」

自然体験活動の主要コンセプトとグランドデザインがおおよそ決まれば、受入施設への施設下見が行われることになるが、この施設下見のチェック・ポイントを「施設下見チェックリスト」によって明示した。約30項目程度を例示し、さらに各校独自の項目を追加できるように、ワークシート形式を工夫した。

6. 「全体指導計画」

3. 4. 及び5. の作業結果を受けて、より具体的で緻密な全体指導計画が立案できるように、「全体指導計画」のワークシート形式を例示した。1) 自然体験活動のコンセプトが実現できるか、2) 児童は明るく生き生きと主体的に活動できるか、3) 児童たちや指導者、施設関係者の1日の動きや活動量に無理はないか、疲労の蓄積がないか、4) 各アクティビティの展開やそれらを繋ぐの時間的流れに無理はないか、5) 安全確保、準備と点検、連絡・連携が図られるか等を、「全体指導計画」でチェックするのである。

7. 「〇〇小 自然学校スタッフ組織図（例）」

自然体験活動（「自然学校」等）の運営・管理、意思決定において責任の所在を明確化して、迅速な意思決定と確実な指示を出すなどのために、明確な責任分担や役割分担を組織的に予め定めておくことが必要である。必要な情報の収集や伝達、共通認識の形成、共有化などに、情報の流れの明確化と責任ある意思決定の判断者の決定は重要な準備である。保護者や関係者等への事前・事後の説明責任の履行や計画・準備等の進捗状況を点検・評価するためにも、組織図として明示しておくことが重要である。ここでは、この組織図化の雛形を提示したものである。

8. 「アクティビティ展開シート」

各アクティビティ毎の目標・内容・方法を明確化し、準備物や活動展開の留意点、安全管理の要点、役割分担等を、学習指導案の形式を参考にした「アクティビティ展開シート」に纏める。このような「シート」を活用することで、詳細な部分の留意事項や変更点等を追記しながら、より円滑な管理・運営、指導・支援のためのシナリオとして積極的に活用していくものである。関係スタッフや指導補助者等にも主要な事項の趣旨徹底を行うために、こうした「シート」の作成が重要である。

また、悪天候や参加児童の体調等の変化等で、予定していたアクティビティ等の内容・方法等を急遽変更せざるを得なかった場合、迅速な変更等が可能なように、予備のアクティビティ等を、こうした計画として用意しておくことが重要である。

9. 「子どもたちへの事前指導のポイント」

自然体験活動では、学習・生活の主人公は児童である。児童自らが、主体的に活動の目標・内容・方法・条件等を理解し、自ら意欲的に活動に参加しようと心身の準備を整え、期待感や楽しみをもって準備や分担を進めて行けることが重要である。そこで、児童自身に意識させ事前に取り組ませておくべきことを、ここでは「子どもたちへの事前指導のポイント」として掲げている。1) 子どもの自然体験活動に関する経験・スキルの実態把握、2) 子どもの生活自立の実態、集団生活における役割遂行能力、自己管理意識の実態把握、3) プログラムの目標・内容・方法・条件等の理解、4) 子どもの心の実態把握、5) 子どもの体の実態把握という5つの要点に即して、事前指導・事前準備の必要性を指摘している。

10. 「自然体験活動前の健康調査チェックリスト」

11. 「保護者説明会のチェックリスト」

12. 「実施直前のチェックリスト」

児童の健康状態の把握、保護者等への明確な情報の提供と十分な説明責任の履行、漏れのない準備と始動体制の確認等のために、10. 11. 12. の各チェックリストが活用できるように、具体的なチェック項目を工夫してリストに纏めておくことが重要である。自然体験活動の運営・管理経験や指導経験の未熟な指導者には、全体の活動展開見通しを描いたり、危機管理の要点をしっかりと把握し確認しておいたり、臨機応変の意思決定ができるかといえ、なかなか困難である。そこで、こうしたチェックリスト等を活用して、可能な限り意識化させて点検・評価し、系統的・全体的に進捗状況を確認できる仕掛けと取り組みが重要である。

13. 「当日（期間中）の運営チェックポイント」

14. 「アクティビティ指導のポイント」

いよいよ自然体験活動（「自然学校」等）の取り組みがはじまると、どの児童もが明るく生き生き主体的に諸活動に参加できるように、1日の初めから就寝後まで、節目節目毎に参加状況の適切な点検・管理と組織的な活動展開への的確な指導・支援が必要になってくる。13. 14. のようなチェックリストを用意し、1日の諸活動や各アクティビティ毎の要点等を児童たちと確認しながら、さらにできれば児童たちの自己点検・自己管理によって主体的に活動させることが重要である。したがって、こうしたチェックリストを参考に、1日1日の「生活チェックリスト」、各係毎の「係活動チェックリスト」、各アクティビティ毎の「アクティビティチェックリスト」等を児童と共に工夫しながら作成し、主体的な取り組みを実行させる工夫を図っていくことが重要である。

15. 「自然体験活動評価のポイント」

自然体験活動の終了後、その活動成果の点検・評価を行うことは、次年度の活動計画立案に資するためだけでなく、その後の学年経営・学級経営や総合的学習活動、特別活動、児童の個別指導等に生かすためにも重要な取り組みである。多忙化し、日々の諸業務に追われるように指導担当教員にとって、自己点検・自己評価を丁寧に行うことはより困難を感じる面もあることから、点検・評価のチェックリストを例示し、より容易に活動成果の総括と課題の発見ができるように支援しようとするものである。

以上、この「計画作成ワークシート綴り」を参考に、自然体験活動指導の担当指導者が、より明確な展望を持ち、より適切な準備・充実した体制を整えて、より高い成果を期して自信を持って実践できることを期待するものである。（長澤 憲保）

第5章 リーフレットの有効性

第1節 調査の内容と方法

先述したように、第三年次の研究では、第一年次と第二年次の研究成果を生かして7因子による「自然体験活動の指導に求められる学校教員の資質能力」に基づいた『はじめての自然体験活動指導』リーフレットを試作した。そこで、そのリーフレットが実際の自然体験活動の指導でどの程度有効なのかを質問紙調査によって確認しようとした。

質問紙調査の内容は、①リーフレットの内容が自然体験活動を指導する学校教員にとって有効なものになっているかどうか（「5. そう思う」～「1. そう思わない」の5段階尺度）とそう思う理由（自由記述）、②もし5年生の担任になって「自然学校」の計画を立てることになった場合に、このリーフレットを参考にするかどうか（「5. そう思う」～「1. そう思わない」の5段階尺度）とそう思う理由（自由記述）、③リーフレットの内容が7因子で構成した「自然体験活動の指導に求められる学校教員の資質能力」を形成する上で役に立つものになっているかどうか（「5. 役に立つと思う」～「1. 役に立たないと思う」の5段階尺度）をたずねた（実際の質問紙は、資料3. として添付したので参照されたい）。

質問紙調査は、第一年次と第二年次の調査において協力が得られた兵庫県下の公立小学校119校、各教育事務所及び「自然学校」受入施設61ヶ所に試作版『はじめての自然体験活動指導』リーフレットを同封して郵送することにした。調査方法は、無記名による郵送質問紙法を採用した。調査実施期間は、平成17年1月31日～同年2月28日までとした。質問紙は公立小学校と教育事務所及び社会教育施設を合わせて54ヶ所から回答を得、回収できた質問紙は71であった。

回答者の基本属性は、表1-1、表1-2、表1-3に示すとおりである。それによれば、回答者の多くは教頭と教員であり、教職経験年数も11年～30年で回答者のほぼ7割を占める。自然学校担当回数は1回～4回が最も多いが、10回経験している者もあり、その散らばり具合は大きい。

表 1－1 基本属性（職位）

職 位	N	%
校 長	3	4.5%
教 頭	16	23.9%
教 員	47	70.1%
指導主事	1	1.5%
合 計	67	100.0%

表 1－3 基本属性（自然学校担当回数）

自然学校担当回数	N	%
0 回	6	9.1%
1－2 回	20	30.3%
3－4 回	15	22.7%
5－6 回	11	16.7%
7－8 回	7	10.6%
9－10 回	6	9.1%
11 回以上	1	1.5%
合 計	66	100.0%

表 1－2 基本属性（教職経験年数）

教職年数	N	%
1－10 年	9	13.0%
11－20 年	23	33.4%
21－30 年	28	40.6%
31－38 年	9	13.0%
合 計	69	100.0%

第 2 節 調査の分析結果

（1）リーフレットの有効度

リーフレットの内容が「子どもたちの自然体験活動」で指導を行う学校教員にとって有効なものになっているかどうかをたずね、その結果を示したものが表 2 である。

表 2 リーフレットの有効度

そう思う	24	33.8%
少しそう思う	26	36.6%
どちらでもない	10	14.1%
あまりそう思わない	10	14.1%
そう思わない	1	1.4%
合 計	71	100.0%

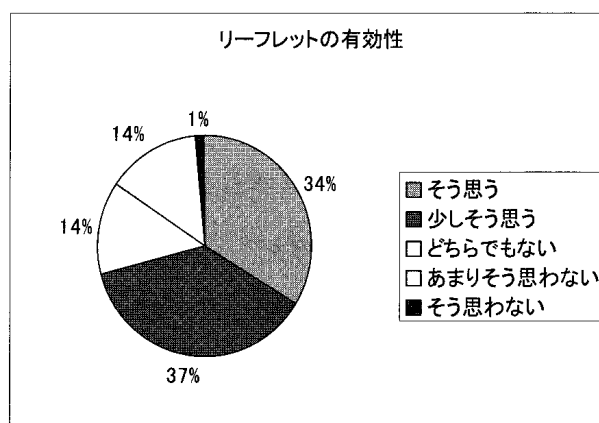


表 2 より、リーフレットの中身の有効度について、「5. そう思う」と「4. 少しそう思う」に回答した者が全体の 7 割を占めた。この結果から、相対的にリーフレットの中身の有効性が確かめられた。

また、有効度の回答の理由を求めたところ、次のような記述が得られた。

問2 リーフレットの有効度

《1と2に答えた人の意見》

- ・内容が余りにも目標や形式にこだわりすぎて「子どもの現実から」に向いていない。
- ・また、保護者が一番期待する「子どもの自立」の方向でないように思う。
- ・前年度までの実績をもとに、企画運営を行っているため。
- ・基準が明確でないため。
- ・思いと計画性があればあまりポイントを示さなくともその全体の中で、細案の必要なところはそれぞれ計画しているように思う。
- ・ワークシート綴りの方は計画段階等で役立ちそうであるが、リーフレットは、もう少し具体的な内容（又は方向性が示してあるもの）であった方が生かせるように思う。
- ・すでに学校行事として方法等定着していると思うから。
- ・観点はよく分かるが、その内容が分からない。
- ・あまり具体的でないように思う。
- ・具体性に欠ける。

《3に答えた人の意見》

- ・全く経験のない教師にとってはまず、最初に読めば何をする必要があるのかを知ることができる。しかし、それ以上にその場に足を運んだり、連絡をとったり、子どもたちの様子をよく見ることの方が重要であると思う。
- ・基本的なことまた、少し抽象的の項目であるため、どちらとも言えない。
- ・活動計画は学校独自の特色（又はその年の担当による特色）があり、参考となるポイントもあるが大体の内容は既に計画の中にあると思われる。
- ・各学校ではそれぞれの事情に基づいて企画、立案、実施を行っており、確認としてならばあえてリーフレットでなくてもよいのではないのでしょうか。

《4と5に答えた人の意見》

- ・子どもの実態は、各校、各年度により違うが、指導上のポイントがよくわかるようにまとめられており、参考になると思われる。
- ・はじめて自然体験活動に取り組む職員にとっては指針となる内容になっている。

- ・地域の特徴があるので、参考になるところは参考にしたい。
- ・いろいろなチェックリストが役に立っている。
- ・チェックポイントが纏めてあげられているので見やすく参考にしやすいと思います。
- ・現在実施している活動と比べることができ、今後の参考としていける点。
- ・指導のポイントがよくわかる。
- ・チェックポイントが参考になる。グラウンドデザインを作るという考え方が参考になる。
- ・細かく計画のポイント、評価の項目があり、活用できるものもあるから。
- ・フローチャートやワークシートが分かりやすく使いやすそうでした。
- ・各項目毎に確認できるようになっているので、初めて担当する教員にとっては、非常に参考になるのではないか。内容はごくごくあたりまえの内容に思う。これだけの紙面をさく必要があるのか？チェックリスト程度でも十分対応可能な気がする。
- ・参考になると思う。
- ・計画は前年までの活動を参考にすすめられることが多いので見直すきっかけになりそうである。
- ・新任研修のような今から担当者になっていく先生方に有効であると思う。
- ・自然学校を計画していくうえで、全体的な計画の流れがわかり良い。
- ・Q & A方法で分かりやすい。
- ・うまく工夫されている。
- ・一人一人の生活や学習、学級づくりの視点、活動のねらい、計画、評価など、活動を進める上でのポイントとなる内容を順序立てて、簡潔にまとめられている。
- ・K J法などを使って、ねらいなどをみんなで考えて実施することは一人ひとりが課題意識をもって体験活動の指導にあたる上で意義あることと思います。
- ・基本的な計画立案の方法やチェックリストなども含まれており参考になる。
- ・自然体験活動を計画するにあたって、考えておかなければならないことが（多面的に）書かれているので利用したいと思います。

- ・ワークシートは具体的に作られており、今まで気づかなかったものもあるのでよい。
- ・ポイントをしばってわかりやすくまとめている。
- ・他校の取組を知り、参考になった。自分の考え方が少し修正できた。
- ・とてもよさそうなので今後活用したい。
- ・チェックポイントが箇条書きされており、思わず考えさせられる。何も思わず取り組んでいた所もあるが価値を考えようと思う。若干難しい言葉・・・「グランドデザイン」（聞き慣れない言葉）。
- ・自然体験活動の企画、立案、実施、反省までの一連の流れ及び注意する点を理解するのに有効である。
- ・こういったものを参考にすると、自分でして欠けている点に気づくことができるから。
- ・前年度の計画性を応用して、新しい計画を立案する機会が多いが、その際に、リーフレットで、チェックしながら不備な点や新しい研究しなければならない点を明確にできる。
- ・はじめて取り組むあるいは、何年かぶりに取り組む者にとって、立案の際、適切なチェックポイントとして役立つ。
- ・準備を始めてから直前、終了時まで、やらなければならないことをチェックリストでほぼ想定し得るすべてについてチェックしていけると思いました。
- ・施設の立場で、このリーフレットくらい準備して学校が自然学校に取り組んでもらえたらと思う。
- ・自然体験活動で体験した事柄が授業で出てきて、その体験が生かされることが多い。
- ・段階を追って、うまく計画が作れるように工夫されている。
- ・チェックカードとしては有効と思う。
- ・計画づくりのポイントがわかりやすく整理されてまとめられているから。
- ・施設対応側から見て参考となる点が多くある。
- ・詳しく書かれているのでわかりやすい。

これらの記述から、リーフレットの内容についての否定的意見では、「抽象的で具体性に欠ける」、「『子どもからの視点』に欠ける」、「ワークシート綴りは役立つが、リーフレットはもう少し具体的であってほしい」等の意見があることが分かる。

逆に、肯定的意見としては、「チェックポイントやチェックリストが箇条書きになっていて参考になる」、「指導上のポイントが簡潔に整理されていて分かりやすい」、「計画時から段階的にうまく計画が立てられるように工夫されている」、「はじめて自然体験活動に取り組む教員には役立つ」といった意見が多かった。

（２）リーフレットの参考度

また、将来小学校５年の担任になったと仮定し、「自然学校」の計画を立てる際にリーフレットをどの程度参考にするかをたずね、その分析結果を示したものが表３である。

表３ リーフレットの参考度

そう思う	19	27.1%
少しそう思う	28	40.0%
どちらでもない	7	10.0%
あまりそう思わない	15	21.4%
そう思わない	1	1.4%
合 計	71	100.0%

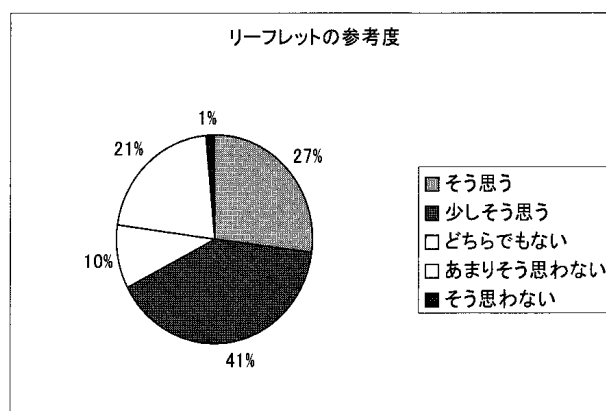


表３より、リーフレットの参考度として「そう思う」と「少しそう思う」に答えた者は、全体の67%を占めた。この結果からも、リーフレットの中身については概ね肯定的な回答が得られたと考えられる。

この参考度の回答の理由についても、自由記述で回答してもらった。

問３ リーフレットの参考度

《１と２に答えた人の意見》

- ・すでに学校行事として方法等定着していると思うから。
- ・内容が余りにも目標や形式にこだわりすぎて「子どもの現実から」に向いていない。

また、保護者が一番期待する「子どもの自立」の方向でないように思う。

- その地域の教育委員会からの会計処理についてなど、個別的なマニュアルの方が重要。
- 観点はよく分かるが、その内容が分からない。
- ある程度経験してきているので理論的なことで本をみるというよりは、その施設の冊子等をじっくり読むことの方が大事だと思う。
- 学校にある計画を中心に担当としての考えを組み込むと思う。もし、活動場所等、内容が大きく変化した時は参考にすると思う。
- 学校で対応しているので活用するほどでもない。
- 前年度の反省の上で、カリキュラムを検討し、進めているため計画を立てる時点では、参考にすることが少ないように思われる。
- これまでの経験や自校の資料を第一に考えると思う。
- ほぼプログラムが固まっているので、チェックに使う程度。
- 具体的に何処で何をすればどうなるかという施設名があると役に立つと思う（例えばQ6を実現化するためには、このような方法もあるといった内容もほしい）。

《3に答えた人の意見》

- だいたい、いつも考えている内容になっている。
- 計画を立ててからの確認などには生かせるように思う。
- 年度初めにどのような観点で自然学校を進めていくとよいかをチェックする時に参考にする。

《4と5に答えた人の意見》

- 段取りを考える際の参考になる。
- 教育活動として、ぬけそうなところのポイントがおさえられる。よい計画になるよう（総合学習も含めて）事前に予定できる。
- 下見チェックリストなどが細かく書かれていて参考になると思います。
- 各種のチェックリストを活用しながら計画を立てていけそう。
- 評価のポイント等は参考にできたらと思います。
- 指導者がもっておく必要のある評価のポイントがよく整理されている。

- ・終了後の評価の際、活用できるものもあります。
- ・活動の評価のポイントのチェック表は、すぐに利用できそうでした。
- ・問2と同様、各項目毎に確認できるので参考にできると思う。ワークシート綴りは、非常に役立つと思う。こちらの方も製本した方てより活用できるようにするとよい。
- ・参考になると思う。
- ・全てを参考にすると決まった自然学校になってしまいそうだから、児童にあったものを考え困って先が見えなくなった時に参考にしたい。
- ・問2，問3について、リーフレットには役立つ情報が含まれているが、我々の自然学の実態とは少し離れている。我々の自然体験活動は、町内、4～6（郡内の4町とも）の小学校が連合で5泊6日行うため、別のノウハウが必要である。このノウハウもここ十数年でつくり上げて来たもので、ある程度の有効的な実績がある。このリーフレットの内容を我々のノウハウに取り入れることは大いに可能である。
- ・とても詳しく、順序だてて、述べられている。
- ・自校に合わせて参考にできる部分については、参考にする。
- ・計画立案に際して基本的な考え方の見直しをする。
- ・今までのしおりや段取りがあるので、時間に余裕がないと見ないかもしれない。
- ・少し難しかった。最後まで読むにはいい。
- ・全体では、地域の実情に合わない面もありますが、自然学校に参考になる面もありますので参考にいたします。
- ・問2に記入した様に、ポイントを的確にまとめられている。
- ・一つ一つの活動内容について緻密な計画を立てて実施することの必要性がよくわかります。ただ、現場の事情からして、十分な時間を割いてみんなで計画を立てることについては、時間的に難しい面もあります。
- ・前年度を参考に行うことが多いですが、綿密に打ち合わせをしてもどうしても抜け落ちてしまいそうなことが順を追って書かれているのでぜひ参考にしたいと思います。
- ・くり返しチェックすることによって、より充実した計画づくりが可能になると

思う。

活用しやすいように目次（Q1、Q2…のタイトルの）があった方がいいと思った。

- ・ぜひ、参考にしたいと思います。
- ・バタバタと取り組んでしまいがちな自然学校を腰を据えて取り組みそう。
- ・実施担当になった場合を考えると、このリーフレットを参考に順序だてて計画を立てることができると思う。
- ・こういったものを参考にすると、自分でして欠けている点に気づくことができるから。
- ・何回か担当していても、常に何かぬけているような気がする。そんなとき、このリーフレットが強い味方となってくれる。
- ・チェックリスト、チェックポイントは、大いに参考にさせていただきたい。
- ・基本はこのリーフレットですが、学校の実情や受け入れ施設によって少しアレンジするかもしれません。
- ・しっかりとした計画を作りたいので、このリーフレットを参考にする。
- ・使用したいと思う。
- ・自分の計画等にぬけている箇所はないかチェックするのに役立てたい。
- ・施設側の私達のチェックにしたい。受入側の参考とさせていただきます。
- ・新しい考え方が新鮮なので。

これらの記述のうち、否定的な意見としては、「前年度の実施を踏まえて既にその学校で作りあげられた方法等があるから、特にこのリーフレットを参考にしなければならないという状態ではない」とか、「このリーフレットに書かれてある内容は既に学校で対応している」とか、「だいたいいつも考えている内容である」など、特に取り立ててこの『はじめての自然体験活動指導』リーフレットを参考にする必要はないという意見が多い。

逆に、肯定的な意見としては、「各種チェックリストや評価のポイントは参考にできる」、「ワークシート綴りは参考になるので、そちらを製本した方がよい」、「計画立案の時の自分の考え方を見直すことができる」、「学校や地域の実情に合わない面もあるが参考にはなる」、「ポイントが上手くまとめられている」、「自分の計画に抜け落ちている箇所がないかチェックするのに役立つ」など、教員が自分の立てた計画内容を

チェックする際の参考にしたいという意見が多い。

(3) 7 因子の「資質能力」形成におけるリーフレットの有効度

さらに、リーフレットの中身が7つの因子で構成した「自然体験活動の指導で求められる学校教員の資質能力」を形成する上でどの程度有効だと思うのかを5段階尺度（「1.役に立たないと思う」～「5.役に立つと思う」）でたずね、その回答の平均値を算出したものが表4である。表4について、便宜的に平均値が3.50以上の質問項目には「←」を付した。というのも、「3.どちらでもない」と「4.少し役に立つと思う」の平均値である3.50を目安にすると、それよりも高い値の場合は、相対的に肯定的な回答が多いと判断できると考えたからである。

表4 自然体験活動の指導に求められる教員の資質能力形成に対するリーフレットの有効度

質 問 項 目	平均値	標準偏差
第1因子：共通理解と集団指導力		
1) 参加する子どもたちをまとめること	3.3	0.87
2) 子どもに生活習慣・社会的ルールを指導すること	3.4	0.91
3) 子どもの自然体験活動に対する意義と価値を理解すること	3.9	0.92 ←
4) 子どもたちに自主的に行動できるように促すこと	3.6	1.04 ←
第2因子：安全管理・安全指導の能力・知識		
5) 事故等への応急処置に関する知識をもつこと	3.5	1.01
6) 自分の健康管理をすること	3.3	0.97
7) 子どもへの安全指導をすること	3.6	0.81
第3因子：自然体験活動の知識		
8) 動植物・森林等の自然に関する知識をもつこと	3.1	0.99
9) 自然体験活動を実施する場（海・山）の知識をもつこと	3.2	1.00
10) 子どもの自然観察・自然理解を指導する技術をもつこと	3.2	0.98
第4因子：企画・指導技術		
11) 子どもたちに合うように事前にプログラムを工夫すること	3.9	0.86
12) 子どもにレクリエーションやゲーム等を指導する技術をもつこと	3.1	0.97
第5因子：状況予測力と対人関係能力		
13) 活動に参加してもらう人々との対人関係づくりができること	3.3	0.90
14) 参加する子どもたち相互の人間関係づくりを支援すること	3.4	0.98
15) プログラムの企画段階で状況の変化を予見すること	3.6	0.95
第6因子：関心・意欲		
16) 自然に関して興味・関心をもつこと	3.2	1.06
17) 自然体験活動への情熱をもつこと	3.4	1.05
18) 自然体験活動を自ら楽しむこと	3.2	1.08
第7因子：元気・体力		
19) 体力に自信をもつこと	2.8	0.89
20) 活力があること	3.1	0.97

(注) 平均値は5段階尺度（1.役に立たないと思う 2.あまり役に立たないと思う
3.どちらでもない 4.少し役に立つと思う 5.役に立つと思う）

表4より、「第1因子：共通理解と集団指導力」の「3）子どもの自然体験活動に対する意義と価値を理解すること」と「4）子どもたちに自主的に行動できるように促すこと」、「第2因子：安全管理・安全指導の能力・知識」の「7）子どもへの安全指導をすること」、「第4因子：企画・指導技術」の「11）子どもたちに合うように事前にプログラムを工夫すること」、「第5因子：状況予測力と対人関係能力」の「プログラムの企画段階で状況の変化を予測すること」の各項目が3.50以上の平均値を示した。この結果から、このリーフレットの内容は、「第1因子」「第2因子」「第4因子」「第5因子」の資質能力形成に有効であるという回答が多いことが分かった。

第2節 リーフレットの有効性に関する考察

以上の結果から、学校教員や社会教育施設の指導者のほぼ7割が『リーフレット』の中身が自然体験活動の指導計画を立てる際に有効であると回答しており、7因子による「自然体験活動の指導で求められる学校教員の資質能力」のうち「第1因子」「第2因子」「第4因子」「第5因子」の構成項目においても有効性が認められた。したがって、『はじめての自然体験活動指導』リーフレットの有効性については、概ね肯定的な評価が多かった。

しかしながら、3割の回答者はリーフレットが具体性に欠ける、役に立たないと回答しており、今後改良の余地がある。また、7因子で構成した「自然体験活動の指導で求められる学校教員の資質能力」との関係性についても、自然体験活動の指導計画づくりに関わる資質能力形成に関係しているのであって、7因子全ての資質能力形成に関係しているのではない。つまり、実施段階での教員の集団指導力、子ども同士の人間関係づくりの支援、自然体験の指導技術や動植物についての知識、子どもへのレクリエーションやゲーム等の指導技術、事故等の応急処置の知識、自然体験活動の指導への意欲・関心、教員自身の活力・体力などは、この『はじめての自然体験活動指導』リーフレットでは十分にフォローし切れていない。そうした意味において、このリーフレットは、厳密に言えば、7因子のうち、主に「第4因子：企画・指導技術」に関する資質能力の形成に焦点化されていると評価できる。

（別惣 淳二）

資料1 「はじめての自然体験活動指導」 リーフレット調査質問紙

「はじめての自然体験活動指導」リーフレットについてのアンケート

(2005. 1. 31)

アンケートへのお願い

このアンケートは、配付しましたリーフレット「はじめての自然体験活動指導」について、先生方の忌憚のないご意見をお伺いし、改善を図ることをねらいとするものです。アンケートは無記名ですので、どうかご協力の程よろしくお願い致します。

兵庫教育大学学校教育研究センター

研究代表 教授 長 澤 憲 保

問1 まず、先生ご自身のことについてお尋ねします。以下のことについて、当てはまるものに○を1つ付けて、〔 〕には数字をご記入下さい。

職 位： 【 1. 校長 2. 教頭 3. 教員 】

教職経験年数： [] 年

自然学校担当回数： [] 回

問2 リーフレットをご覧頂いて、その内容は「子どもたちの自然体験活動」を指導される学校の先生方にとって有効なものとなっているでしょうか？ 下の「5. そう思う」～「1. そう思わない」のうち1つに○を付けて頂き、〔 〕にそのことについてのご意見・ご感想をお書き下さい。

【 5. そう思う 4. 少しそう思う 3. どちらでもない 2. あまりそう思わない 1. そう思わない 】

問3 もし先生ご自身が今後5年担当になって、自然学校の計画を立てる際、このリーフレットを参考にしたいと思いますか？ 下の「5. そう思う」～「1. そう思わない」のうち1つに○を付けて頂き、〔 〕にそのことについてのご意見・ご感想をお書き下さい。

【 5. そう思う 4. 少しそう思う 3. どちらでもない 2. あまりそう思わない 1. そう思わない 】

裏面につづく

問4 下記の自然体験活動の指導に求められる教員の資質能力を高めたり、有効に発揮したりするために、このリーフレットはどの程度役に立つと思いますか？

5・4・3・2・1の中から当てはまる番号に○を1つ付けて下さい。

5. 役に立つと思う

4. 少し役に立つと思う

3. どちらでもない

2. あまり役に立つと思わない

1. 役に立つと思わない

- | | |
|--|-----------|
| 1) 参加する子どもたちをまとめること…………… | 5・4・3・2・1 |
| 2) 子どもに生活習慣・社会的ルールを指導すること…………… | 5・4・3・2・1 |
| 3) 子どもの自然体験活動に対する意義と価値を理解すること…………… | 5・4・3・2・1 |
| 4) 子どもたちに自主的に行動できるように促すこと…………… | 5・4・3・2・1 |
| 5) 事故等への応急処置に関する知識をもつこと…………… | 5・4・3・2・1 |
| 6) 自分の健康管理をすること…………… | 5・4・3・2・1 |
| 7) 子どもへの安全指導をすること…………… | 5・4・3・2・1 |
| 8) 動植物・森林等の自然に関する知識をもつこと…………… | 5・4・3・2・1 |
| 9) 自然体験活動を実施する場（海・山）の知識をもつこと…………… | 5・4・3・2・1 |
| 10) 子どもの自然観察・自然理解を指導する技術をもつこと…………… | 5・4・3・2・1 |
| 11) 子どもたちに合うように事前にプログラムを工夫すること…………… | 5・4・3・2・1 |
| 12) 子どもにレクリエーションやゲーム等を指導する技術をもつこと…………… | 5・4・3・2・1 |
| 13) 活動に参加してもらう人々との対人関係づくりができること…………… | 5・4・3・2・1 |
| 14) 参加する子どもたち相互の人間関係づくりを支援すること…………… | 5・4・3・2・1 |
| 15) プログラムの企画段階で状況の変化を予見すること…………… | 5・4・3・2・1 |
| 16) 自然に関して興味・関心をもつこと…………… | 5・4・3・2・1 |
| 17) 自然体験活動への情熱をもつこと…………… | 5・4・3・2・1 |
| 18) 自然体験活動を自ら楽しむこと…………… | 5・4・3・2・1 |
| 19) 体力に自信をもつこと…………… | 5・4・3・2・1 |
| 20) 活力があること…………… | 5・4・3・2・1 |

アンケートへのご協力本当にありがとうございました。

このアンケートは、2月末日までにご投函下さい。

第6章 研究の成果と課題

平成16年度、研究プロジェクト・第2ワーキンググループの主な研究成果は、学校教員の自然体験活動指導のための資料2：「はじめての自然体験活動指導一計画づくりのポイント」（リーフレット）及び、資料3：「計画作成ワークシート綴り」を作成できたことである。これらの資料は、各々の作成段階から、研究協力者として関わって頂いた兵庫県立自然体験活動拠点施設の自然学校専門指導員や抽出協力校指導教員等から意見や感想等を聴取し、従来から様々な調査研究等の機会に示されてきた課題に応える形で取り組んできたことから、概ね肯定的な成果評価が得られるように作成してきたが、特にこの度は、リーフレットに関して試作版を作成し、予備調査を行って、より具体的に教育実践の場での有効性を確認することができ、より多くの信頼を得ることができた。また、資料2及び資料3として本報告書に添付したリーフレット及びワークシートは、第5章の試作版の質問紙調査後に、改めて改善・工夫したものであり、より充実したものになっている。

しかし、より広範にこれら研究成果の活用を期待するためには、平成17年度以降、さらに兵庫県内外各施設における「自然学校」実施過程等での計画・立案に際して実際に多くの学校教員の方々に活用していただくことが必要であり、真の評価は、その活用によって、実際にどれだけその有効性が発揮されるかに期すべきものである。そこで、平成17年度以降、さらに追跡調査を継続的に行い、成果評価に反映させていきたいと考えている。

（長澤 憲保）

《主な参考文献》

- 平成15年度兵庫教育大学学校教育研究センタープロジェクト研究「子どもの自然体験活動の指導に求められる学校教員の指導資質能力に関する研究」 2003年
- 長澤憲保「学校行事の指導」（高田清・諸岡康哉編著『特別活動の基礎と展開』コレール出版 2001年）

研 究 組 織

研究代表者

長 澤 憲 保 (学校教育研究センター・教授)

研究協力者

上 西 一 郎 (学校教育研究センター・助教授)

別 惣 淳 二 (学校教育研究センター・助教授)

千 駄 忠 至 (生活・健康系教育講座・教授)

荒 木 勉 (生活・健康系教育講座・教授)

福 本 謹 一 (芸術系教育講座・教授)

安 原 一 樹 (生徒指導講座・助教授)

嶋 崎 博 嗣 (幼年教育講座・助教授)

梅 田 麻衣子 (附属中学校・教諭)

樋 口 剛 史 (附属小学校・教諭)

谷 石 宏 子 (附属幼稚園・教諭)

藤 井 潤 (兵庫県立嬉野台生涯教育センター・指導主事兼自然学校専門指導員
兵庫教育大学学校教育研究センター・客員研究員)

平成 16 年度兵庫教育大学プロジェクト研究
子どもの自然体験活動の指導に求められる
学校教員の資質能力形成に関する研究
研究報告書（第三年次）

平成17年 3月30日 発行

研究代表者 兵庫教育大学学校教育研究センター
教授 長 澤 憲 保

はじめての 自然体験活動指導

—— 計画づくりのポイント ——

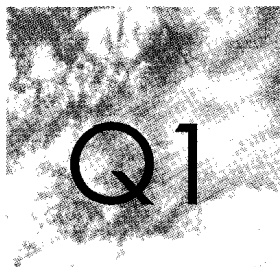




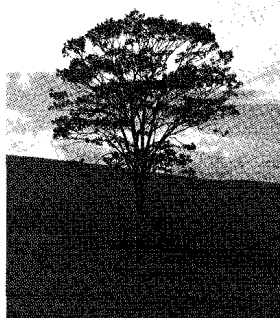
このリーフレットは、学校教育の一環としての自然体験活動を指導される教員の方々に、活動とその指導の全体的な在り方を展望すると共に、活動計画や指導計画を立案しやすくし、活動を通じた教育的な効果をよりいっそう高められるように支援し協力しようとするものです。

自然体験活動の指導には、その教育的な効果を高めるために、いくつかの要点が指摘されてきています。とりわけ、①活動の意義や価値を明確に共通理解し、②子どもたちが自主的に活動できるように促しつつ、③状況変化を予見しながら事前にプログラムを工夫し、④子どもたちの健康・安全に十分配慮しながら、⑤楽しく参加できる人間関係づくりに取り組むことが大切です。このリーフレットを十分に活用して、指導の基点となる充実した活動計画や指導計画を立案し、子どもたちの生き生きとした活動が展開されるような創意工夫あるご指導を行っていただきたいと存じます。また、このリーフレットが、ご活用いただく教員の方々の自然体験活動指導、さらに特別活動指導等の力量向上に、些かなりとも貢献できますなら、誠に大きな喜びであります。

なお、このリーフレットの構成は、計画立案の時系列的な順序等に沿って、Q1. ～Q18. の問いかけ形式になっておりますが、各学校等のご事情に即して、活動計画や指導計画の立案に際してご参考となる観点をご活用いただきたいと思いますと考えています。



自然体験活動の意義って 何でしょう？



- 学校教育目標や特別活動の目標、総合的学習活動等の目標とかかわって。
- 児童一人一人の課題や可能性とかかわって。
- 学級づくりの課題や目標・計画とかかわって。



活動のねらいや指導のポイントは 何でしょう？



- 自然体験活動で追求させたいことは？
—活動全体を通してのねらいを明確に—
- 自然体験活動の指導目標は？
—児童たちの実態と指導者のねがいを込めて—

Q3

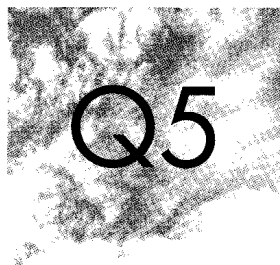
活動プログラムの作成 —いつから、どのように始めますか？

- ☐ 3ヶ月前からできることは？
- ☐ 1ヶ月前からできることは？
- ☐ 直前にできることは？
- ☐ プログラム作成への児童参画は？

Q4

各活動のもつ可能性を チェックしましたか？

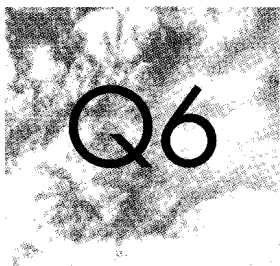
- ☐ どんなねらいや目標が追求できるか？
- ☐ どんな内容の良さや素晴らしさが体験できるか？
 - 児童たちの実態や課題とかかわって—
 - 指導者のねがいとかかわって—



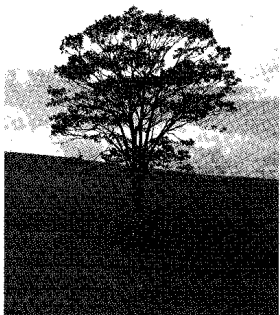
各活動の教育的効果をより高める特色づけ、 重点化のポイントをチェックしましたか？



- どこを生かせばねらいや目標に迫れるか？
- どこを生かせば内容の良さや素晴らしさに触れさせられるか？
 - 各活動の可能性と目標、内容との接点を明確にする—
 - 各活動の特色や重点を1つに絞る—



活動プログラムの グランドデザインを持っていますか？



- グランドデザイン構想のポイントは？
 - 活動全体を通して、ねらいに迫る重点と方略を持つ—
- 特色ある活動、重点活動の位置づけは？
 - その目標—内容—方法等の生かし方をチェック—
- 活動スケジュールの設定は？
 - 各活動の所要時間と留意事項のチェック—
- 雨天時の活動プログラムの準備は？



施設下見から、活動の条件・ 環境をチェックしましたか？



○宿舎や活動サイト等の施設・設備の特色や立地条件は？

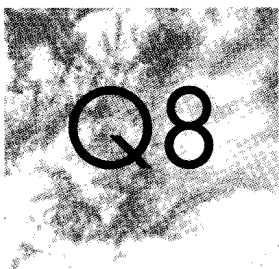
—児童たちが十分活用できる—

○特色ある活動、重点活動のために必要な条件・環境は？

—児童たちになったつもりで試してみる—

○集団宿泊生活のための宿舎環境は？

—児童たちの生活の流れに即して動いてみる—



指導者間の役割分担と 指導の進め方をチェックしましたか？



○指導者間の意思決定・役割分担と連絡・調整の仕方は？

—隙間のない意思決定・役割分担の筋道ができている—

○状況変化に即して意思決定し、連絡・調整するのは誰？

—各活動毎に、間近で意思決定する責任担当が決まっている—

○プログラムを推進するため、スケジュール管理するのは誰？

○活動指導を行う過程で、指導の内容・方法をチェックするのは誰？

—意思決定の要になる責任担当を明確にしている—



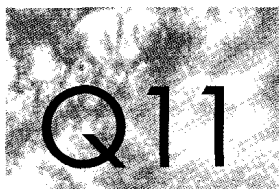
指導者側の準備や 協力・支援の体制はできましたか？

- 具体的な活動プログラム立案の仕方は？
- 個々の活動に対する指導内容・指導方法の準備は？
- 指導者側の準備、協力・支援の体制づくりは？
- 指導のため、協力・支援を得るための準備のチェックリストは？
- 準備計画表、準備日程表の作成は？
- 自然体験活動の「しおり栞」作成は？



児童たちへの事前指導・ 確認のポイントは何でしょう？


- 集団宿泊生活の目標は？
- 自然体験活動の取り組み目標は？
- 生活規律・活動規律としての目標は？
- 自主的・自治的な活動計画は？
- グループ活動・グループ生活での役割分担と取り組み方法は？
- 児童一人一人の生活目標・生活計画と準備は？



Q11

保護者への事前連絡・ 確認のポイントは何でしょう？

- 自然体験活動の意義・目的と学校教育目標とのかかわりは？
- 特別活動・総合的学習活動等の取り組みとのかかわりは？
- 活動の内容・計画と指導・支援体制のあり方は？
- 事前準備と緊急時の対応、連絡・協力体制のあり方は？
- 個々の児童、特別な配慮を要する児童への対応・支援のあり方は？
- 参加に要する費用、準備物等のあり方は？



Q12

施設指導員との事前連絡・ 確認のポイントは何でしょう？

- 自然体験活動の意義・目的と学校教育目標とのかかわりは？
- 特別活動・総合的学習活動等の取り組みとのかかわりは？
- 活動の内容・計画、施設指導員等との役割分担は？
- 施設指導員等との連絡・調整の方法は？
- 各活動の目標・内容・方法及び指導の分担・協力は？
- 学校内の意思決定、連絡・調整の体制と施設側の対応は？
- 施設・設備の特色・条件と各活動の留意点は？
- 緊急連絡体制、応急措置等の基本的事項の確認は？



Q13

各活動のポイントは チェックできましたか？

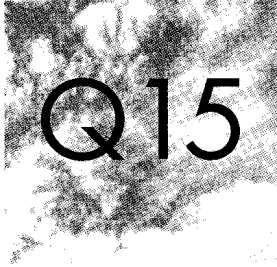
- 各活動の目標—内容—方法等のポイントは？
- 各活動の指導のポイントは？
- 各活動の準備・分担のポイントは？
- 各活動の実施、或いは変更の条件は？
- 各活動の評価のポイントは？



Q14

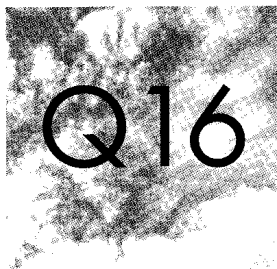
児童たちは活動・生活の楽しさを 期待していますか？

- 各活動や集団生活を楽しみにしていますか？
—施設資料やVTR映像等で、楽しい活動をイメージ化している—
- 自ら体調を整え、活動に意欲的な構えを示していますか？
—グループ活動や係活動に、具体的な取り組みが始まっている—
- 仲間と楽しい体験活動を実現しようとしていますか？
—仲間との分担・協力の必要性を自覚化している—



かかわり合いづくり、 学級づくりは進んでいますか？

- ☐ 信頼し合える仲間意識が育ってきていますか？
- ☐ 協力し合う活動経験が重ねられてきていますか？
- ☐ 生活規律・活動規律が育ってきていますか？
- ☐ 思い遣る心配りが通い合ってきていますか？
- ☐ 学級のちからが高まってきましたか？



指導者として意欲と情熱が わいてきましたか？

- ☐ 楽しく生き生きした活動が見込めそうですか？
- ☐ 充実した集団生活ができそうですか？
- ☐ 児童たちの創意工夫や可能性を引き出せそうですか？
- ☐ 学級のちからを高められそうですか？
- ☐ 指導者として大切にしたい重点が見えてきましたか？



Q17

プログラムの成果と評価の ポイントが見えてきましたか？

- 活動プログラムの目標とその成果を展望してみると？
- 活動プログラム評価のポイントが明確になってきましたか？
- 活動プログラムの成果評価を試みてみましょう！
 - 特別活動・総合的学習活動等における取り組みとかかわって—
 - 学校教育目標とかかわって—
 - 指導及び指導計画、指導体制のあり方とかかわって—



Q18

活動プログラムの成果を 事後に活用・発展させましょう！

- 特別活動・総合的学習活動等とかかわって。
- 学級経営・学年経営等とかかわって。
- 児童一人一人の生活や学習活動等とかかわって。
- 学級・学年での相互人間関係等とかかわって。



発 行：兵庫教育大学

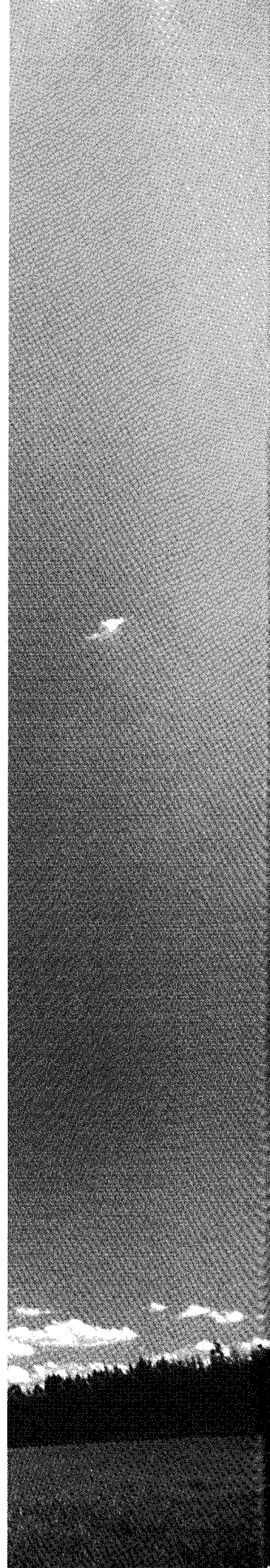
制 作：兵庫教育大学学校教育研究センター
実地教育支援研究部門（研究代表：長澤憲保）

発 行 日：平成17年3月30日（初 版）

研究協力：兵庫県立教育研修所
兵庫県立嬉野台生涯教育センター
兵庫県立南但馬自然学校

参考文献：

- 平成15年度兵庫教育大学学校教育研究センタープロジェクト研究
「子どもの自然体験活動の指導に求められる学校教員の指導資質能力に関する研究」 2003年
- 平成16年度兵庫教育大学プロジェクト研究
「子どもの自然体験活動の指導に求められる学校教員の指導資質能力に関する研究」 2004年
- 長澤憲保「学校行事の指導」（高田清・諸岡康哉編著『特別活動の基礎と展開』コレール出版 2001年



はじめての自然体験活動指導 —指導計画づくりのポイント—

計画作成ワークシート綴り

I. ワークシート綴りの使い方

このワークシート綴りは、『はじめての自然体験活動指導—計画づくりのポイント—』リーフレットに基づき、学校教員の方々が具体的な活動計画や指導計画等を作成しようとされる際に、その計画づくりの進め方や要点等を、フローチャートやワークシート、チェックリスト等の形式でわかりやすく例示したものです。

リーフレットに示されたQ 1. ～Q 18. の問いかけに対応させながら、ここに挙げたフローチャートやワークシート、チェックリストを参考に、自然体験活動の展開過程を具体的に見通しながら活動計画や指導計画等を作成し、より充実した準備やより効果的な事前指導等が行えるように活用してください。

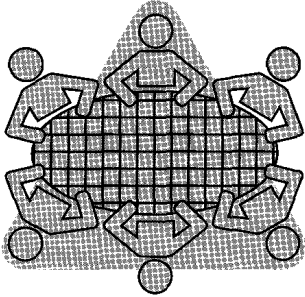
なお、このワークシート等の内容や形式等は、例示したものを参考に各学校等でより実践的に工夫し、その必要に応じて加筆・修正して活用してください。

II. ワークシート綴りの構成 — 目 次 —

0. 「計画づくりのフローチャート」
自然体験活動の展開過程の、全体を展望する 2～3
1. 「コンセプト（自然体験活動のねらい）を決める5つの要素」 4
2. 「コンセプトとアクティビティ」
取り入れたい各アクティビティの教育的意義や特性・可能性を掴む 5
3. 「アクティビティカード」
各アクティビティの名称、目標、内容等を設定する
4. 「アクティビティの組み合わせ—グランドデザインを作ろう—」
各アクティビティの活動展開を構想し、全体を展望する 6
5. 「施設下見チェックリスト」
ねらいに即した各活動ができるかどうか、下見のチェック観点を持つ 7
6. 「全体指導計画」
各アクティビティの目標・内容とプログラム全体の配置を考える 8
7. 「〇〇自然学校スタッフ組織図（例）」
自然体験活動運営の役割分担と意思決定の系統を具体的に決めておく 9
8. 「アクティビティ展開シート」
各アクティビティ毎に、その活動展開の具体案を構想する 10
9. 「子どもたちへの事前指導のポイント」
既有経験や健康状態等の実態と生活や諸活動の可能性を把握する 11
10. 「自然体験活動前の健康調査チェックリスト」
子どもたちの健康管理と留意点の確認のために 12
11. 「保護者説明会のチェックリスト」
わかりやすく十分な説明を行うために、必要事項を明確にしておく 13
12. 「実施直前のチェックリスト」
手際よく、漏れなく全体的な準備状況を確認する 14
13. 「当日（期間中）の運営チェックポイント」
自然体験活動の展開過程での適切な判断や意思決定のために 15
14. 「アクティビティ指導のポイント」
各アクティビティ毎に、進捗状況の適切さをチェックするために 16
15. 「自然体験活動評価のポイント」
活動終了後の反省と総括のために、目標・内容に対応した評価を行う . . . 17～18
16. 参考文献 19

計画づくりのフローチャート

計画・立案



どんな自然体験活動に？

どんな力をつけさせたいか？

コンセプトの明確化 ①

アクティビティ(活動)は？ ②

⑤
施設下見

グラントデザインは？ ③ ④

グラントデザインの再検討・決定 ⑥

組織づくり・役割分担はできていますか？ ⑦

アクティビティをどう展開しますか？ ⑧

事前準備



全体計画の明確化

保護者への
説明 ⑨ ⑩

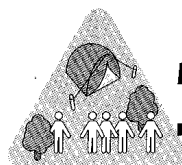
子どもたちへの
指導 ⑪

利用施設との
打合せ ⑫

スタッフの共通理解 ⑫

プログラムの実施

⑬ ⑭



実施

導 入

展 開

ま と め



評価・展開

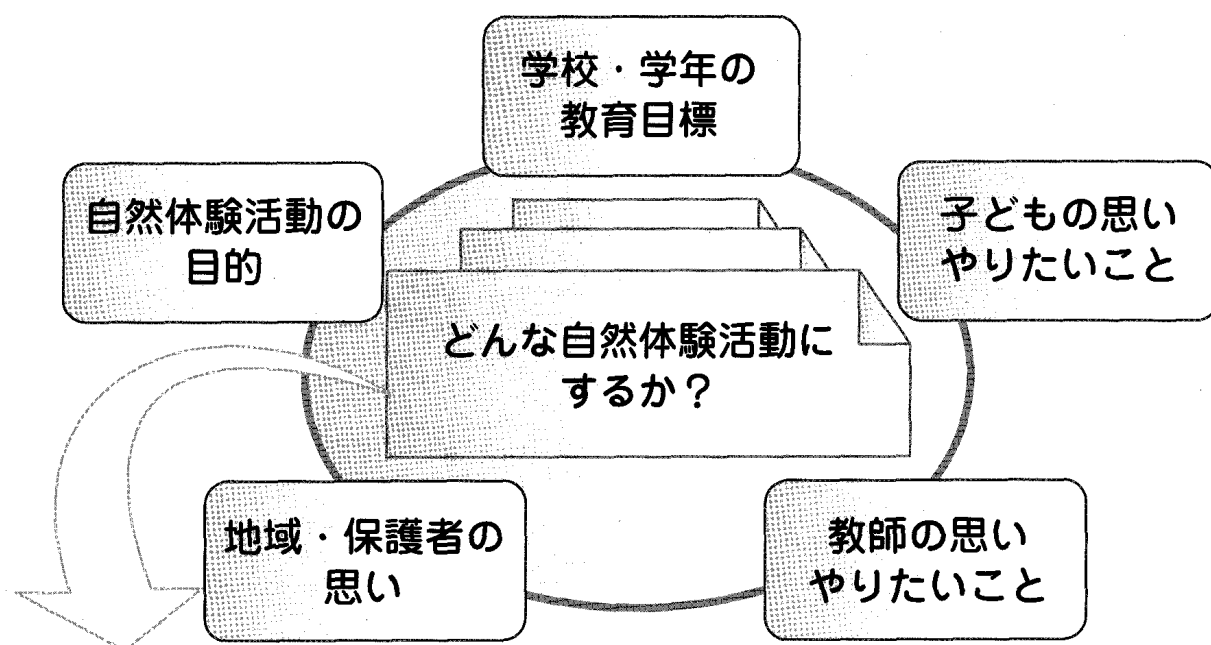
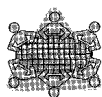
評価ポイントの明確化

⑮

- コンセプトに関して
- 運営に関して
- リスクマネジメントに関して
- 実施中の出来事に関して

自然学校後の展開について

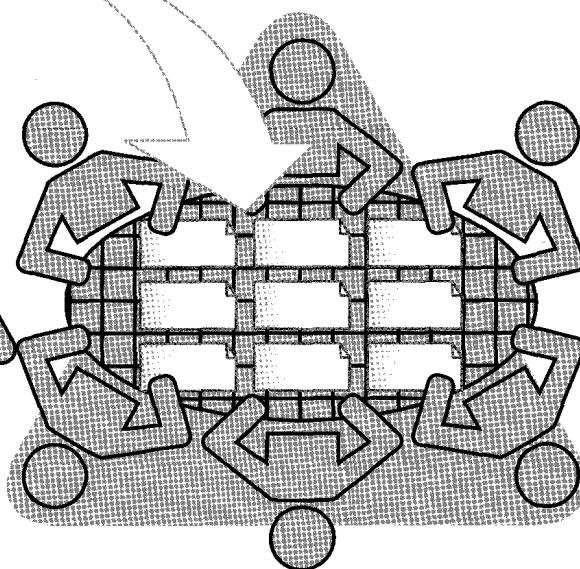
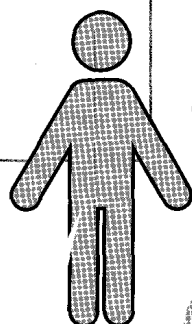
- 学級経営に関すること
- 各教科・特別活動に関すること
- 児童一人ひとりの生活や学びに関すること
- 人間関係づくりに関すること



- 5つの要素を参考にして、考えましょう。
- アイデアを出し合ってからまとめましょう。

＜アイデアを出すときの5つのルール＞

- ①良い悪いの判断はしない。
- ②何を考えても許される。
- ③とにかくアイデアを大量に出す。
- ④広い角度から発想する。
- ⑤アイデアを組み合わせて考える。



KJ法を使ってみよう。

- ①内容が似ているカードを5～6枚ずつ集める。
- ②集めたカード群にタイトルを付ける。
- ③カード群や単独で残っているカードを同じ要領でまとめ、それぞれにタイトルを付ける。
- ④これを繰り返し、10以内のグループにまとめる。
- ⑤各グループの関係性をみながら全体をまとめる。

コンセプトの決定

コンセプトチェック

- ①より具体的ですか？
- ②達成度を測ることができますか？
- ③達成可能ですか？
- ④子どもたちの生活に関連がありますか？

コンセプトの決定



学校や施設のオリジナルプログラムなどを書き加えて、プログラムリストを作っておくと、来年度に助かりますよ！！



③ アクティビティカード

アクティビティ名

ねらい

内容

- コンセプトにあったアクティビティを選びましょう。
- 一つのカードに3つの項目について簡単にまとめましょう。
- 付せんをカードとして使うと便利です。

② グランドデザインシート

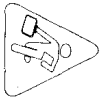
準 備	アクティビティの流れ	指導上の留意点
<div>導入(つかみ)</div> <ul style="list-style-type: none"> ○施設付近の地図が必要。 ○危険箇所のチェック 	<div>施設内オリエンテーリング</div> <ul style="list-style-type: none"> ○施設の位置関係を知る。 ○オリエンテーリング形式 <div>マップ作り</div> <ul style="list-style-type: none"> ○施設の位置関係をまとめる。 ○クラスで作成 <div>↓</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ単位で行動する。
<div>展開(本体)</div>		
<div>まとめ(ふりかえり)</div>	<div>終了後につなかる教科・活動は？</div>	

- アクティビティカードをランドデザインシートに貼り付けよう。
- コンセプトに沿って導入→展開→まとめの流れが生まれるようにカードを張り替えよう。
- カードにそって、準備物や指導上の留意点も記入しよう。
- 終了後のつながりについても考えておこう。

施設下見チェックリスト

⑤

NO	内 容	チェック	再チェック
1	<input type="checkbox"/> 施設の環境を把握しましたか？		
2	<input type="checkbox"/> 施設、キャンプサイト及び周辺の地図を用意しましたか？		
3	<input type="checkbox"/> 生活場所や活動場所の周辺地形を確認しましたか？		
4	<input type="checkbox"/> 生活場所や活動場所の危険箇所を調べましたか？		
5	<input type="checkbox"/> 活動場所の危険動植物について種類を調べましたか？		
6	<input type="checkbox"/> 危険動植物の多い場所と少ない場所を確認しましたか？		
7	<input type="checkbox"/> 活動場所周辺の生態について情報を得ましたか？		
8	<input type="checkbox"/> どの時間帯にどうい注意が必要か調べましたか？(寒暖の差や虫の状況など)		
9	<input type="checkbox"/> 他の団体の利用があるかどうか？		
10	<input type="checkbox"/> 立ち入り禁止区域、重要施設(貯水池など)、私有地(林)などがありますか？		
11	<input type="checkbox"/> 効果的にプログラムを行うのに適したフィールドはありますか？		
12	<input type="checkbox"/> 全体を安全に集合させられる、適当日陰のある場所を確認しましたか？		
13	<input type="checkbox"/> 森での活動を安全に行える場所はどこですか？		
14	<input type="checkbox"/> 水辺の活動を安全に行える場所はどこですか？		
15	<input type="checkbox"/> 水道のある場所や、その数を確認しましたか？		
16	<input type="checkbox"/> 体調が悪くなった人を一時的に休ませる場所がありますか？		
17	<input type="checkbox"/> トイレの場所とその数を確認しましたか？		
18	<input type="checkbox"/> 備品運搬車や緊急車両はどこまで入れますか？		
19	<input type="checkbox"/> 近くの救急病院や、車が入る場所までのおおよその到着時間をチェックしましたか？		
20	<input type="checkbox"/> 駐車場はどこにありますか？		
21	<input type="checkbox"/> 管理棟と宿泊棟の距離及び緊急時の連絡体制を確認しましたか？		
22	<input type="checkbox"/> 内線又は、外線電話の場所を確認しましたか？		
23	<input type="checkbox"/> 施設の避難経路、避難場所について確認をしましたか？		
24	<input type="checkbox"/> 施設内のトイレの様式を確認しましたか？		
25	<input type="checkbox"/> 施設内の消火施設の確認をしましたか？		
26	<input type="checkbox"/> 施設内で今までに事故が起きている場所の確認をしましたか？		
27	<input type="checkbox"/> プログラム中のパトロール体制が出来ていますか？		
28	<input type="checkbox"/> 携帯電話及びトランシーバーがつながることを確認しましたか？		
29	<input type="checkbox"/> 目印などで明確に区分が出来る活動場所を決めましたか？		
30			
31			
32			
33			
34			
35			



全体指導計画

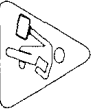
6

スケジュール

記入者

年 月 日

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
流れ						
ねらい						
5:00						
6:00						
7:00						
8:00						
9:00						
10:00						
11:00						
12:00						
13:00						
14:00						
15:00						
16:00						
17:00						
18:00						
19:00						
20:00						
21:00						
22:00						
23:00						
24:00						

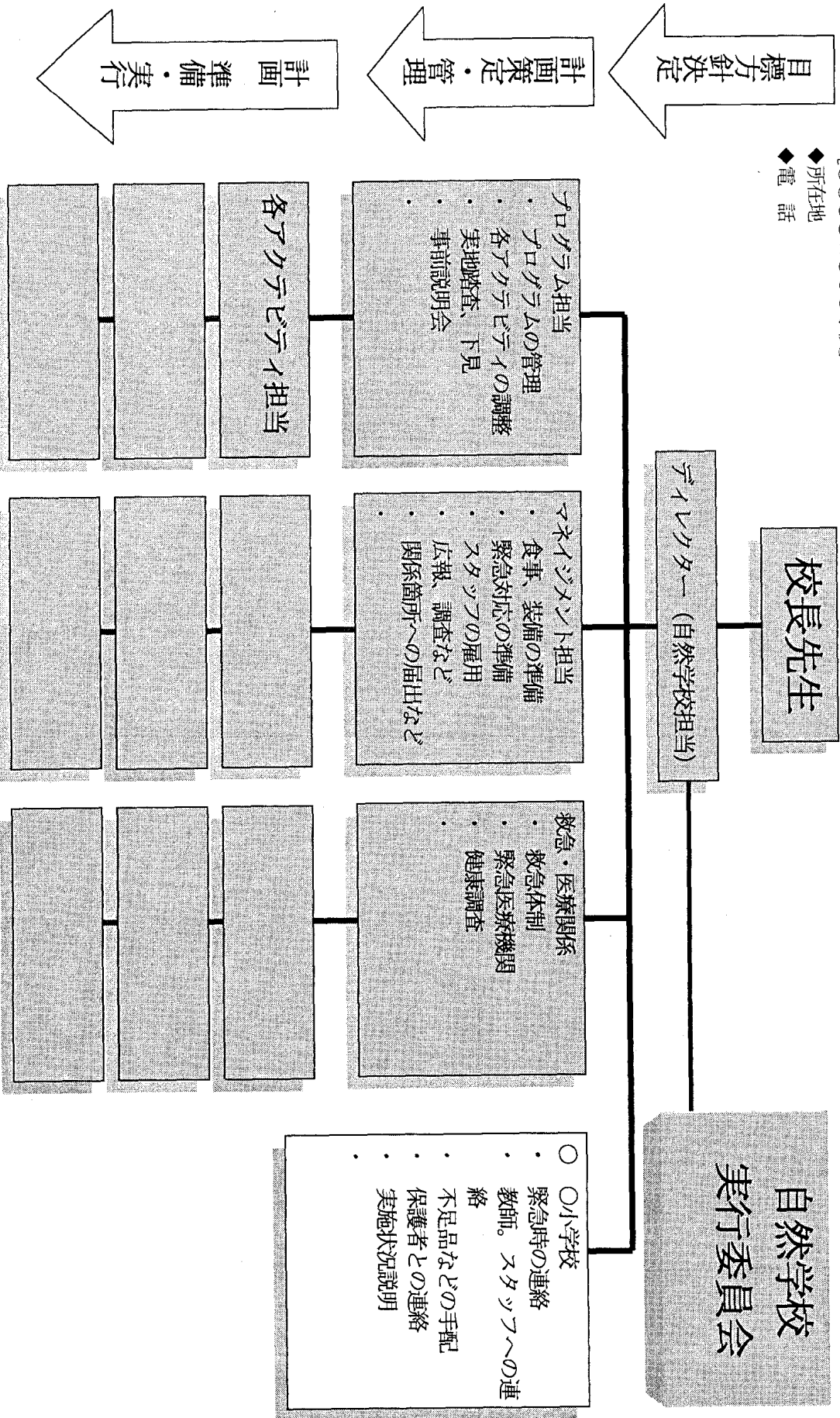


〇〇小 自然学校スタッフ組織図 (例)

7

[〇〇〇〇立〇〇〇〇学校]

- ◆所在地
- ◆電話



8

記入者

- 展開：

子どもの持ち物



子どもたちへの事前指導のポイント

⑨

子どものこころ

- 子どもの性格、心の状態の把握
- クラスや集団の中での交友関係の把握
- クラスやその集団が持つ課題の把握
- クラスやグループでの仲間意識の向上
-

子どものからだ

- 過去の疾病、けがなどの把握
- アレルギーについての把握
- 体質の把握
- 体温、睡眠、便通などの普段の体調の把握
- 体調の自己管理の意識を高める。
-
-

プログラムやそのねらい

- 今回のプログラムの流れやそのねらいの確認
- ねらいをふまえた、クラスやグループの規範作り
- 子どもたちのねらいや期待を全体で共有する機会の設定
-

経験・スキル

- 自然体験に関する経験の把握
- プログラム実施に必要な道具の扱い方などのスキルの向上
- 危険な動植物、行動についての確認
-

生活

- 子どもたちに生活自立の意識を持たせる。
- 集団生活上の役割を明確にする。
- 自己管理の意識を高める。
-



自然体験活動前の健康調査チェックリスト

⑩

NO	内容	チェック欄	再チェック
1	基本情報(名前・生年月日・住所・血液型など)を確認しましたか？		
2	緊急連絡先について、最低2カ所の電話番号とその電話の所在地について確認しましたか？		
3	医療機関にかかる時に必要な書類や情報について確認にしましたか？		
4	保護者に対して、自然体験活動中のからだや心の不安について確認しましたか？		
5	個々の子どもに対して、自然体験活動中のからだや心の不安について確認しましたか？		
6	女子児童について、月経の有無について確認しましたか？		
7	個々の子どもに対して、持病の有無について確認しましたか？		
8	個々の子どもに対して、持病悪化・発症時の対処法について確認しましたか？		
9	個々の子どもに対して、生まれてから今までにかかった病気やケガについて確認しましたか？		
10	個人情報の保護の観点から、収集した個人情報の取り扱いについて注意をはらっていますか？		
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			

健康調査に関する留意点



保護者説明会のチェックリスト

11

NO	内容	チェック欄	再チェック
1	自然学校のねらいやコンセプトを説明しましたか？		
2	内容や、日程、実施場所について説明しましたか？		
3	プログラムのリスクを隠さず説明しましたか？		
4	安全確保、事故対策の体制について説明しましたか？		
5	携行品や服装について具体的に説明しましたか？		
6	今回の自然学校に適さない健康状態について説明しましたか？		
7	天候が悪い場合のプログラム変更について説明しましたか？		
8	スタッフ紹介をしましたか？（指導補助員・救急員も含め）		
9	出発前までの健康管理について説明しましたか？		
10	説明会用の保護者向け資料の準備は出来ましたか？		
11	わかりやすくする工夫はしましたか？		
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			

説明会開催についての留意点



実施直前のチェックリスト

⑫

NO	内 容	チェック	再チェック
1	<input type="checkbox"/> プログラムの目的・行程をスタッフ全員で確認しましたか？		
2	<input type="checkbox"/> 下見から得た情報も含めて、全員で共有しましたか？		
3	<input type="checkbox"/> 参加する子どもの情報について、全員で共有しましたか？		
4	<input type="checkbox"/> 実施場所の危険箇所とその対策について、全員で確認しましたか？		
5	<input type="checkbox"/> その他起こりうる事故や危険性を予測し、その対応策を協議しましたか？		
6	<input type="checkbox"/> 最新の気象情報を入手していますか？		
7	<input type="checkbox"/> 最新の現地情報を現地への問い合わせなどを通して入手していますか？		
8	<input type="checkbox"/> 様々な気象条件に応じたプログラム変更のパターンを検討しましたか？		
9	<input type="checkbox"/> スタッフ間の役割分担を確認しましたか。		
10	<input type="checkbox"/> アクシデント発生時の対応を確認しましたか？		
11	<input type="checkbox"/> 非常時連絡体制の確認をしましたか？		
12	<input type="checkbox"/> スタッフの体調を確認しましたか？		
13	<input type="checkbox"/> 交通機関、宿泊施設、食事など手配が必要なものについて、最終連絡が済んでいますか？		
14	<input type="checkbox"/> 必要な物の準備や手配は確認しましたか？		
15			
16			
17			
18			
19			
20			



当日（期間中）のチェックポイント

13

導入時期

- ☐ 目的やねらいを子供たちに伝えましょう。
- ☐ 活動施設で食事や宿泊、トイレやお風呂、緊急時の避難ルートなど生活全般に関わることに
ついてオリエンテーションを行いましょう。
- ☐ 活動施設で子供たちのねらいや期待を全体で共有できる機会や場所を持ちましょう。
- ☐ 子供たちの反応（体調面、心理面など）をよく観察しましょう。
- ☐ スタッフ（指導補助員、救急員など）と子供たちの間により関係をつりましょう。
- ☐
- ☐

展開時期

- ☐ 常に活動内容や指導方法が適切なものであったか確認する。
- ☐ 子供たちに必要な情報を口頭だけでなく、お知らせボードなども活用しながらその都度適切
に伝えましょう。
- ☐ プログラムに対する子供の反応に適切対応しましょう。
- ☐ 天候の変化への対応も含め、安全管理に十分配慮する。
- ☐ 自然環境に十分配慮しましょう。
- ☐ 子どもたち同士で交流できる「自由」な時間や場を持ちましょう。
- ☐ 日記などで1日をふりかえる時間を持つ。
- ☐ 1日終了時に、スタッフ（教員・指導補助員・救急員など）でミーティングを持ちましょう。
- ☐ スタッフ（指導補助員・救急員など）の健康状態、精神状態に注意しましょう。
- ☐
- ☐

まとめ時期

- ☐ 子どもたちが、日程中の体験をふりかえる機会をつくりましょう。
- ☐ 実施場所（施設）の現状復帰をしましょう。
- ☐



アクティビティ指導のポイント

⑭

開始前

- ☐ 児童の人数を確認しましょう。
- ☐ 児童の体調を確認しましょう。
- ☐ 活動の目的、日程を説明しましょう。
- ☐ 活動中のルールを説明しましょう。
- ☐ 児童に危険な動植物、行為について説明しましょう。
- ☐ スタッフの紹介をしましょう。
- ☐ 活動に必要な備品や準備物がそろっているか確認しましょう。
- ☐
- ☐

実施中

- ☐ 児童の健康を顔色や活動の様子からチェックしましょう。
- ☐ 活動中、スタッフは、児童の状態を常に把握するように心がけましょう。
- ☐ 定期的に人数確認をしましょう。
- ☐ 児童に危険な動植物、行為について注意、指導しましょう。
- ☐ 天候・気温の変化に注意しましょう。
- ☐ スケジュールの進行状態を管理しましょう。
- ☐
- ☐

終了時

- ☐ 活動場所の最終チェック(現状復帰)をしましょう。
- ☐ 児童の人数を確認しましょう。
- ☐ 児童の体調、けがの有無を確認しましょう。
- ☐ ねらいの達成度や、児童の満足度・達成度を確認(ふりかえり)しましょう。
- ☐ 協力者や協力機関への連絡、あいさつをおこないましょう。



自然体験活動評価のポイント

15

① ねらいに対する評価（主に子どもに関して）		不満		期待通り		期待以上		不明	該当しない
①	1 自然体験活動の目的・目標に対してどの程度達成できましたか？	1	2	3	4	5	A	B	
	2 子どものもつ個々の目的・目標に対してどの程度達成できましたか？	1	2	3	4	5	A	B	
	3 目的・目標に近づくプログラムでしたか？	1	2	3	4	5	A	B	
	4 子どもの反応は豊かでしたか？	1	2	3	4	5	A	B	
	5 各活動の振り返りや分かち合いを実施し、次の活動に行かせたか？	1	2	3	4	5	A	B	
	6 ひとり一人の児童の考えや活動は生かされていたか？	1	2	3	4	5	A	B	
	7 児童同士の信頼関係が以前比べ築けたか？	1	2	3	4	5	A	B	
	8 児童ひとり一人が新しい自分を発見できましたか？	1	2	3	4	5	A	B	
	9 児童は自然にどっぷり浸り、楽しむことが出来たか？	1	2	3	4	5	A	B	
	10 責任感・満足感・達成感など児童に味わわせることが出来たか？	1	2	3	4	5	A	B	
	11	1	2	3	4	5	A	B	
	12	1	2	3	4	5	A	B	
②企画・運営に関して（主にスタッフに関して）		不満		期待通り		期待以上		不明	該当しない
②	1 全体の教育計画と関連づけて計画を作ることができたか？	1	2	3	4	5	A	B	
	2 この自然体験活動の社会的役割を理解することができたか？	1	2	3	4	5	A	B	
	3 目的やねらいにあわせた活動内容や活動場所を用意することができましたか？	1	2	3	4	5	A	B	
	4 使用する施設や活動場所の下見はしましたか？	1	2	3	4	5	A	B	
	5 わかりやすい企画書を作ることができましたか？	1	2	3	4	5	A	B	
	6 スタッフの配置計画作成し、要員を確保することができたか？	1	2	3	4	5	A	B	
	7 スタッフの配置・役割分担は、適切であったか？	1	2	3	4	5	A	B	
	8 スタッフにプログラムのねらいを明確に伝え、理解させることが出来たか？	1	2	3	4	5	A	B	
	9								
	10								
	11	1	2	3	4	5	A	B	
	12	1	2	3	4	5	A	B	

③安全管理に関して		不満		期待通り		期待以上		不明	該当しない	
③	1	利用施設の危険箇所を把握できていましたか？		1	2	3	4	5	A	B
	2	プログラムに対する安全管理について適切な指示がなされていたか？		1	2	3	4	5	A	B
	3	子どもたちの情報を事前に把握することができましたか？		1	2	3	4	5	A	B
	4	子どもたちの健康管理・健康状態を把握できましたか？		1	2	3	4	5	A	B
	5	緊急時の役割分担やその対応について明確にしていたか？		1	2	3	4	5	A	B
	6	危機回避のための判断基準を明確にしていたか？		1	2	3	4	5	A	B
	7	スタッフの健康管理は出来ていたか？		1	2	3	4	5	A	B
	8	安全管理に対する説明が明確になされたか？		1	2	3	4	5	A	B
	9	負傷者などへの誠意ある対応がなされたか？		1	2	3	4	5	A	B
	10	事故やけがに対し発生状況および対応処置などについて保護者に的確な説明・報告がなされたか？		1	2	3	4	5	A	B
	11			1	2	3	4	5	A	B
	12			1	2	3	4	5	A	B
④5泊6日の期間中の生活に関して		不満		期待通り		期待以上		不明	該当しない	
④	1	子どもたちに生活の自立姿勢を持たせることはできましたか？		1	2	3	4	5	A	B
	2	集団生活上の役割を明確にし、指示することができましたか？		1	2	3	4	5	A	B
	3	食事の量、質は適切でしたか？		1	2	3	4	5	A	B
	4	寝室やお風呂などの施設の環境は適切でしたか？		1	2	3	4	5	A	B
	5	子どもの睡眠時間は適切でしたか？		1	2	3	4	5	A	B
	6	子どもたちの健康チェック(心と体)を行いましたか？		1	2	3	4	5	A	B
	7	困ったことや心配なことを相談できる機会をつくりましたか？		1	2	3	4	5	A	B
	8	子どもたちのねらいや期待を全体で共有する機会を持ちましたか？		1	2	3	4	5	A	B
	9	子どもたちに必要な情報をその都度適切に伝えることができましたか？		1	2	3	4	5	A	B
	10	指導補助員や救急員と子どもたちの間により関係が気づけていましたか？		1	2	3	4	5	A	B
	11	子どもたち同士が交流する「自由」な時間を持つことができましたか？		1	2	3	4	5	A	B
	12	1日の活動を振り返る時間を持つことができましたか？		1	2	3	4	5	A	B
	13	1日の活動終了後にスタッフミーティングを持つことができましたか？		1	2	3	4	5	A	B
	14	スタッフの健康状態・精神状態に注意することができましたか？		1	2	3	4	5	A	B
	15			1	2	3	4	5	A	B

16. 参考文献

- (1) 「自然体験活動 企画・運営 ハンドブック」 NPO法人 国際自然学校
- (2) 「自然体験活動安全対策 ハンドブック」 NPO法人 国際自然学校
- (3) 日本野外教育研究会編「野外活動 その考え方と実際」 杏林書院
- (4) 「平成14・15年度 自然・人・地域に学ぶ」 兵庫県立南但馬自然学校
- (5) 高橋誠著「課題解決手法の知識」 日本経済新聞社
- (6) 「環境教育プログラム集」 独立行政法人 国立淡路青年の家
- (7) 提供資料 (株) プロジェクトアドベンチャージャパン
- (8) NPO 法人自然体験活動推進協議会編「自然体験活動指導者手帳」 山と溪谷社

はじめての自然体験活動指導—指導計画づくりのポイント—
計画作成ワークシート綴り

発行：兵庫教育大学

制作：兵庫教育大学 学校教育研究センター

研究代表：長 澤 憲 保（実地教育支援研究部門主任・教授）

制作担当：藤 井 潤（客員研究員・兵庫県立嬉野台生涯教育センター指導主事）

発行日：平成17年3月30日

研究協力：兵庫県立教育研修所

兵庫県立嬉野台生涯教育センター

兵庫県立南但馬自然学校